平成２８年度

外部評価委員会報告書

久留米工業高等専門学校

ま え が き



久留米工業高等専門学校長　三川　譲二

久留米工業高等専門学校外部評価委員会は、「本校の振興発展に関心と理解のある学外有識者」によって組織され、「校長が付託する事項について検証、評価を行ない、本校の教育・研究の改善に資するため、提言を行なうこと」を目的に、前身の「自己点検・評価協力者会議」（平成４年度設置）、「外部評価協力者会議」（平成１４年度設置）の後を受けて、平成１８年度から活動を開始いたしました。この間、外部評価委員の皆様から本校の教育・研究、学校運営に関して様々なご指摘やご意見を賜ってきました。学校としては、それらのご指摘やご意見をその都度学校運営の改善に役立たせていただいて参りました。

今年度は、「前年度の指摘事項について」（企画主事）、「教育の現状と改善について」（教務主事）に加えて、「教職員人事の考え方について」（校長）、「創造性を育む教育の現状について」（専攻科主事）と題して、校長・各主事が報告を行い、ご評価をいただきました。

企画主事と教務主事の報告は、本校の学校運営の改善と教育・研究の現況に関する基本的かつ重要な報告であり、専攻科主事報告は、本校の教育のダイナミズムを示す貴重な報告でありました。一方、校長報告は、人事の機密性に照らして扱うのがややデリケートな内容を含んでおりました。外部評価委員の皆様は、これらの報告について、問題の所在を的確に捉えられ、真摯にご評価くださいました。

私たちは、この度いただいた委員の皆様のご指摘を有り難い戒めとして謙虚に受け止め、本校の学校運営の改善と、教育・研究の一層の充実をはかっていかなければなりません。それと同時に、外部評価委員会報告書を外部に公開し、学校運営の透明性を担保して参りたいと考えております。関係各位におかれましては、久留米高専の教育・研究、学校運営につきまして、今後とも忌憚のないご指摘・ご意見を賜ることができれば幸いでございます。

結びに、ご多用中のところ、委員会にご臨席賜りました外部評価委員の皆様には、厚く御礼申し上げます。とりわけ、委員長として議事進行とご講評の取りまとめ等の労をお取り下さいました九州大学大学院工学研究院長の高松洋先生には心より感謝申し上げます。

目　次

ま え が き

１．外部評価委員会委員名簿…… 4
２．外部評価委員会出席者名簿…… 5
３．外部評価委員会規程…… 6
４．外部評価委員会日程…… 7
５．開会挨拶…… 8
６．委員紹介…… 8
７．スケジュール説明及び資料確認…… 8
８．議長選出…… 8
９．議事
（１）前年度の指摘事項について…… 9
（２）教育の現状と改善について……10
（３）教職員人事の考え方について……11
（４）創造性を育む教育の現状について……12
（５）全体質疑……13
（６）講評……16
１０．閉会挨拶……17
１１．外部評価の結果……19
（１）評価点……20
（２）意見・提言……21
１２．説明資料
（１）前年度の指摘事項について（校長補佐／企画主事）……25 (1～10)
（２）教育の現状と改善について（副校長／教務主事）……37 (1～16)
（３）教職員人事の考え方について（校　　長）…… 55 (1～16)
（４）創造性を育む教育の現状について（校長補佐／専攻科主事）……73 (1～ 9)

久留米工業高等専門学校外部評価委員会委員名簿

平成28年12月 現在
（敬称略）

氏　　名	所　　属	職　　名
髙 松　　洋	九州大学	大学院工学研究院長
原 田　　明	九州大学	大学院総合理工学研究院長
永 田 見 生	久留米大学	学　　長
今 泉 勝 己	久留米工業大学	学　　長
橋 本 政 孝	久留米市	副 市 長
坂 本　　満	産業技術総合研究所	九州センター所長
草 野 智 弘	(株)ブリヂストン	九州生産本部長兼工場長
中 川 修 三	大電(株)	総務部長
荒 巻 達 也	久留米市中学校長会	会長(市立城南中学校長)
平 田 敬一郎	(株)久留米リサーチ・パーク	常務務取締役

平成２８年度外部評価委員会出席者名簿

（敬称略）

外部評価委員

委員長	髙松　洋	九州大学大学院工学研究院長
委員	原田　明	九州大学大学院総合理工学研究院長
委員	今泉勝己	久留米工業大学長
委員	坂本　満	国立研究開発法人産業技術総合研究所九州センター長
委員	草野智弘	株式会社ブリヂストン九州生産本部長兼久留米工場長
委員	中川修三	大電株式会社総務部長
委員	荒巻達也	久留米市中学校長会会長　城南中学校長
委員	平田敬一郎	株式会社久留米リサーチ・パーク常務取締役

学校側参加者

校　長	三川譲二
副校長／教務主事	和泉直志
校長補佐／学生主事	辻　豊
校長補佐／寮務主事	石丸良平
校長補佐／専攻科主事	池田　隆
校長補佐／企画主事	江﨑昇二
機械工学科長	中武靖仁
電気電子工学科長	平川靖之
制御情報工学科長	丸山延康
生物応用化学科長	冨岡寛治
材料工学科長	川上雄士
一般科目（文科系）学科長	安部規子
一般科目（理科系）学科長	宮本久一
産学民連携テクノセンター長	中嶌裕之
学生相談室長	笈木宏和
企画主事補（生物応用化学科　教授）	津田祐輔
企画主事補（制御情報工学科　教授）	黒木祥光
事務部長	平尾耕二
総務課長	栗田　耕
学生課長	遠藤真一

久留米工業高等専門学校外部評価委員会規程

（平成１６年７月２３日制定）

（設置）

第１条　久留米工業高等専門学校（以下「本校」という。）に学外の有識者による外部評価委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

（目的）

第２条　委員会は、校長が付託する事項について検証、評価を行ない、本校の教育・研究の改善に資するため、提言を行なうことを目的とする。

（組織）

第３条　委員会は、本校の振興発展に関心と理解のある学外有識者のうちから、校長が委嘱した委員をもって組織する。

２　委員の任期は２年とし、再任を妨げない。なお、委員の職にある者が任期中、転退職した場合、後任者が引き継ぐものとする。この場合、委員の任期は前任者の残任期間とする。

（委員長）

第４条　委員会に委員長を置き、校長が委嘱する。

２　委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

（報告）

第５条　委員会は、第２条の検証、評価が終了したときは、評価の結果を校長に報告するものとする。

（事務）

第６条　委員会の事務は、総務課総務課長補佐（総務担当）において処理する。

附　則

この規程は、平成１６年７月２３日から施行する。

附　則

この規程は、平成１８年６月１日から施行する。

附　則

この規程は、平成１９年４月１日から施行する。

平成２８度外部評価委員会日程

日　時　　平成２８年１２月２２日（木）　１４：００～１６：３０
場　所　　久留米工業高等専門学校　大会議室

14：00　　開会

14：00　　開会の挨拶

14：05　　委員の紹介及び進行スケジュールの説明

14：13　　議長選出

14：15　　議題
（１）「前回の指摘事項について」　　（校長補佐／企画主事）

（２）「教育の現状と改善について」　　（副校長／教務主事）

（３）「教職員人事の考え方について」　　（校　長）

（４）「創造性を育む教育の現状について」　（校長補佐／専攻科主事）

16：10　　講評

16：25　　閉会の挨拶

16：30　　閉会

開 会 挨 拶

三川校長：本日は、外部評価委員の皆様におかれましては、ご多用中のところ、外部評価委員会にご出席賜り、厚く御礼申し上げます。

私ども、日頃から全身全霊をかけて教育研究、学校運営に携わっておるわけですが、ふと立ち止まりますと、果たしてこれで良いのか、と考えることがしばしばあります。

こうした折に、外部からのご意見を賜ることができることは大変在り難いことだと存じます。

また、私どもの日頃の教育の営為の価値について、ご指摘をいただくことも肝要かと存じます。ご評価いただくことがありましたらそれを励みにしたいと思っておりますし、厳しいご指摘についても、今後改めるべきことは改め、改善に向かって、教職員一同、一丸となって努力していきたいと思っている次第でございます。

本日は、前年度の指摘事項の改善の取組み、教育の現状と改善、教職員人事の考え方、創造性教育についてという４つのテーマで報告をさせていただいた上で、ご評価をいただくことになっております。

３番目の教職員人事の考え方については、小職が担当させていただきます。準備が十分できたとはとても言えないのですが、準備の過程において、大変良い勉強をさせていただきました。こうした機会を与えていただいたことに深く感謝している次第でございます。

それでは、限られた時間でございますが、忌憚のないご意見、ご指摘を賜ればと存じております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

委 員 紹 介

栗田総務課長から外部評価委員の紹介、並びに学校側出席者の紹介が行われた。

スケジュール説明及び資料確認

栗田総務課長から本日の外部評価委員会のスケジュールの説明と配布資料の確認が行われた。

議 長 選 出

久留米工業高等専門学校外部評価委員会規程第４条第２項の規定に基づき、外部評価委員会委員長である高松九州大学大学院工学研究院長が議長に選出された。



議　　事

（1）前年度の指摘事項について

髙松委員長：議長を仰せつかりました九州大学大学院工学研究院長の髙松でございます。どうぞよろしくお願いいたします。では、早速議事進行を務めてまいりますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。それでは、日程表に沿って議事を進めさせていただきます。まず、議題の１でございまして、「前年度の指摘事項について」ということで、江﨑企画主事からご説明お願いいたします。

（江﨑企画主事から、資料「前年度の指摘事項について」（Ｐ２５～Ｐ３６）に基づき説明）



【質疑応答】

髙松委員長：どうも有り難うございました。今の件につきまして、何かご質問、ご意見等ございませんでしょうか。

今泉委員：ＪＡＢＥＥについてですが、昨年はまだ継続する高専が多いという説明でしたが、今年も全国の高専では、まだＪＡＢＥＥは必要だと考えてあるのでしょうか。

三川校長：高専は全国に５１校ありますが、２年前に初めてＪＡＢＥＥを受審しない旨決定した高専が現れました。その後、いくつかの高専でそれに続く動きがありました。その影響について注視して行きたいと考えています。本校内でも議論が分かれている状況です。

全国の５１高専を管下に置く高専機構本部は、ＪＡＢＥＥの受審を強制していないので、自由度は若干ありますが、本年度の年度計画では、ＪＡＢＥＥを更新するとしています。高専機構本部は、外部評価の重要性を唱えており、ＪＡＢＥＥを更新しない場合、他の外部評価機関での受審を求めてくるものと考えています。

そこで、十数年の実績があるＪＡＢＥＥを受審せず、他の評価機関を受審するということは手間がかかるという難しい面もあります。

中川委員：昨年度も議論されましたが、ＪＡＢＥＥの必要性とか効果が、曖昧だった印象でしたが、そこはどう考えてありますか。

三川校長：ＪＡＢＥＥが始まったときは、ＪＡＢＥＥインパクトというのがありまして、高専は工学教育の機関としては、国際レベルを満たしているという客観的な評価が必要でありました。

しかし、審査に係る費用や受審準備に膨大な時間を費やし、確かに負担になっている面もあります。現在、本校では、５つのプログラムがＪＡＢＥＥ審査で認定されていますが、中間審査を受審しなければならない学科が一つあるものの、その学科も今後２年間は保証されています。

継続するか否かの議論については、高専機構や他高専の動向も見据えた上で、慎重な判断が必要であると考えています。

髙松委員長：有り難うございました。よろしいでしょうか。

（２）教育の現状と改善について

髙松委員長：それでは、続きまして、議題２でございますが、「教育の現状と改善について」ということで、和泉教務主事から説明をお願いいたします。

（和泉教務主事から、資料「教育の現状と改善について」（Ｐ３７～Ｐ５４）に基づき説明）

【質疑応答】

髙松委員長：どうも有り難うございました。今の件につきまして、何かご質問、ご意見等ございませんでしょうか。

今泉委員：３年生の退学が増加しているのは、何か特段の理由があるのでしょうか。

和泉教務主事：３年生までは、高等学校と同様のレベルで進学していくが、専門科目がくさび型となっているので、４年生になると難しいレベルになります。

テキストについても、大学と同程度のものであり、何とかギリギリ進級してきた学生が、対応できなくなったためだと考えています。しかし、進級はできないもののある条件を満たせば３年生が終わった段階で他の大学の入学資格を得ることができるという理由もあります。

草野委員：現在、貴校で一番の課題として捉えてあるのは何でしょうか。

和泉教務主事：全国的に見て、本校の進学者数と就職者数は高いレベルであり、それを光の部分であると捉えていますが、その一方で、やはり学校を辞めていくという学生がいます。しかしながら、入学させた以上、卒業させるのは責務でありますが、学生の中には、本当は工学技術者に成りたくないという学生もいます。それはある程度、仕方がないことかもしれませんが、先程、今泉委員のご質問にもありましたとおり、３年生の退学者が少し多いことは否めません。高専の場合は、大学と違い全単位を満たさないと進学できず２回留年すると退学となります。その原因としては、勉学に対する意欲をなくしたという理由からです。

その理由としては、高専に入学してくる学生は、高い学力をもっており、その素質に頼った勉強の仕方を行うため、そこで、専門科目に対する基礎が身につかず挫折する学生もいます。学生から、勉強の仕方を聞かれると普通にやりなさいと指導するが、私自身、普通にやることが難しいと考えています。

髙松委員長：有り難うございました。よろしいでしょうか。



（3）教職員人事の考え方について

高松委員長：それでは、続きまして、議題３でございますが、「教職員人事の考え方について」ということで、三川校長から説明をお願いいたします。

（三川校長から、資料「教職員人事の考え方について」（Ｐ５５～Ｐ７２）に基づき説明）

【質疑応答】

高松委員長：どうも有り難うございました。今の件につきまして、何かご質問、ご意見等ございませんでしょうか。

中川委員：パフォーマンスと経験年数も踏まえた人事評価については、全ての職員について実施されているのですか。

三川校長：優れた教員の確保は不可欠であり、教員の場合は、助教、講師、准教授、教授と職位があり、教職員のモチベーションを保つため、ある程度の標準的な目安は示しており、６０才を超えた教員については、昇任の機会を保証し、モチベーションを保ってもらう仕組みは整えています。

草野委員：高専のミッションを明確にすることが必要であり、あくまでも人事制度というのは、ミッションを達成するための手段でしかないので、その方向性がぶれないようにすることが不可欠であると考えます。

三川校長：本校にはかなり優秀な学生が入学しているので、高専における研究は、その優秀な学生の受け入れを補完するものであると考えています。

その優秀な学生の教育をしっかりと行うこと、ミッションはこれにつきると考えています。本校の入学倍率は２倍で就職率も良いのですが、毎年、運営費交付金も減額されており、施設の老朽化も進み、優秀な学生や教員が揃っているものの、教育・研究以外にも、どうしても避けられない取り組みが求められている状況です。

坂本委員：事務職員についても、教員と同様の基準で行っているのですか。

平尾事務部長：一部の幹部職員については、文部科学省の人事戦略もありますが、平成１６年度の独立行政法人化以降は、業績評価や業務経験を踏まえ、優秀な職員は積極的に機関内で幹部職員に登用していく方向になってきています。

髙松委員長：有り難うございました。よろしいでしょうか。



（４）創造性を育む教育の現状について

髙松委員長：それでは、続きまして、議題４でございますが、「創造性を育む教育の現状について」ということで、池田専攻科主事から説明をお願いいたします。

（池田専攻科主事から、資料「創造性を育む教育の現状について」（Ｐ７３～Ｐ８３）に基づき説明）

【質疑応答】

髙松委員長：どうも有り難うございました。今の件につきまして、何かご質問、ご意見等ございませんでしょうか。

坂本委員：学生の研究や実習は、非常に興味深いが、例えば、生物応用化学科の課題は、どの位のスパンで変更していますか。

冨岡生物応用化学科長：１年生の科目に関しては、３年位のスパンで実験の入れ替えを行うことがありますが、その他の学年については基本的なことは変えず、随時変更を加えています。

坂本委員：専攻科の課題となると、非常にレベルが高いと考えられますが、企業からの提案等もあるのですか。

冨岡生物応用化学科長：企業からの提案はありません。課題名は、非常にレベルが高そうですが、内容は簡単なものです。本カリキュラムの目的は、学生自身が簡単なことでも良いので、企画・立案して結果を導きだすことに重点を置いています。

草野委員：私も非常に良い取り組みだと思います。学生自身に企画・立案させることは、レベルの問題はあるものの、そこに主体性があることが重要であると考えます。

髙松委員長：有り難うございました。よろしいでしょうか。

全体質疑

髙松委員長：高専の方で用意していただきました４つの議題についてご説明いただいて、ご意見ご質問を伺いました。今までの課題やそれ以外のものでもよろしいので、ご意見、あるいは別にご質問とかございましたら頂戴したいのですが。いかがでしょうか。

髙松委員長：先ずは私から、教育の現状と改善に関することについて、質問させてもらいますが、高専では、１年生と４年生の成績に相関があるように見えますが、九州大学工学部の機械学科では、入学時の成績とその後の成績には全く相関がなく、入学後のモチベーションによる影響が非常に大きいと考えていましたが、相関があるということは、入学時の成績が悪いと最後まで悪いままと考えることもできますが、そうであれば、入学時の躓きに対する対応や、勉強の仕方を指導するとか、改善を加える部分はあると考えます。

和泉教務主事：確かに相関関係は認められますが、中には、少しずつでも成績が上がっていく学生もいますので、いかに動機付けできるかが問題になると考えています。また、来年度からは組織改革を計画しており、現在の就職担当委員会をキャリア支援室として拡充することで、就職だけではなくキャリア教育にも重点を置き、学生の動機付けの一つとすることも考えています。

髙松委員長：私が気になるのは、ここは高専であり高校ではないので、中学を卒業したばかりで自分の将来に対し、明確な目標を持っている学生は少なく、また目標どおりに進んで行ける学生は少ないと考えます。高校であれば、理系から文系へ、逆に文系から理系へ進路変更する学生がいますが、高専生で３年生になって、進路が違ったことに気付く学生はいないのですか。

和泉教務主事：そういう学生がいますので、現在、高専機構は教育制度の改革を唱えています。例えば有明高専と北九州高専は、１学科に入学者を受け入れ、有明高専は２年生の途中から、北九州高専の場合は３年生から適正等に応じ、学科を振り分けるという方式です。

髙松委員長：方向転換が容易にできるシステム作りも大事ではないかと考えます。ここに入学したからこの道しかないとか、学生を縛らず将来に対しての選択余地や、可能性を作ってやることも必要だと考えています。

三川校長：文部科学省は、くくり入試や学科改組を推奨しています。本校では来年度から材料工学科を材料システム工学科に学科名称を変更しますが、学科名称変更と学科改組とは非常に大きな違いがあり、学科改組であれば予算措置と定員増がはかられるのですが、学科名称変更にはそれがありません。それでも敢えて行ったのは、時代のニーズに応える必要があったからです。只今、和泉教務主事から説明があった、くくり入試や１学科複数コース制は、他の高専でもかなりやっておりますが、本校の５年一貫教育はまさに早期教育であり、産業界のニーズにも対応しているものです。教育制度については、他にもいくつかあり、例えば他高専では低学年の時に混合学級制度を導入し、他学科の授業も受けその上で、転科させる高専もあります。それらの効果を注視し、良く見極めて行う必要があると考えています。

髙松委員長：国立大学も予算が削減され、すごく大変な状況になっています。高専も毎年１％の運営費交付金が削減されていると説明されましたが、これは人員配置にも影響がありますか。

大学の場合は、高専以上の運営費交付金の減額となっています。そういった影響もあり、各大学は大学間の競争で各種プロジェクト予算を取りにいくことになるのですが、その場合、色々な指

標、例えば、大学ランキングが予算配分に影響を及ぼすとか、大学間の競争が非常に激しい状況です。高専の場合も、何らかの指標をもって高専間で競争するという仕組みになっているのですか。この２点を伺います。

三川校長：高専間でもそうなりつつありますが、それが、適面に表れているのは、高専機構に補正で予算措置された分や、給与ベースアップ分を見込んだ留保予算の再配分については、機構本部の基準により傾斜配分されています。しかし、査定項目ついて明文化されたものはないと認識しています。

髙松委員長：それでしたら、予算配分に当たり特定項目の指標に対して傾斜配分が行われるというようなことはないのですね。

三川校長：当初予算配分については、学生数等の係数に基づき明確な積算根拠により配分されています。

髙松委員長：わかりました。このような質問をしたのは次の理由からです。高専の目標は教育と決まっているわけで、先程から進路という話がありますが、教育の目標というのは、出た所ではなく、まだ先のところにあります。従って、目先の指標等が予算配分等に影響がないのであれば、目先のことに捉われず、もう少しドシッと構えて、久留米高専の教育理念を貫いてもらいたいと考えます。

和泉教務主事：先週、機構本部の監事監査で本校の教育は古き良き高専であるということを言われました。理由としては、入試倍率や進路が良好であるということで、特に問題を感じられないとのことでした。ただ、新しい取り組みも必要であるというアドバイスも受けました。

髙松委員長：目標を教育に置く以上、非常に大切なことが２つあります。

１番大事なのは熱意であり、２番目が教育の方法ということになると思います。熱意があっても、教え方が上手くなければよろしくない。逆に教え方が上手くても、熱意がなければ、学生に伝わらない。高専の教員になられる方は、何かの学科の専門を学ばれた方がなられている訳で、大学もそうですが、我々は教え方を習ったことがありません。そこで、どうやって教えて行くかというと、自分が習った人を真似たり、自分で想像したりして教育を行うことになります。それ故、熱意とか責任感に負うところが大きくなると思います。

ただ、大学は研究があることを理由に、それに甘んじている部分も一部にはありますが、高専はそういう訳にはいかず、そうなると教育のやり方や研修とか、若手教員が学ぶことが大事だと思いますが、そういった取り組みは行われていますか。

和泉教務主事：本校では、教員の相互参観を実施しています。これは、石川高専も取り組んでおり、同校は全国の高専で一番留年率が低い高専であり、同校の教育方針は、１に教育、２に教育で１５番目位に研究を位置付ける程、先ず授業の質を上げるということに取り組んでいます。

三川校長：本校は現在、主流となっているアクティブラーニングやｅ－ラーニングはもちろんのこと、Ｗｅｂシラバスにも取り組んでおり、全国の高専へ啓発する先導役の役割を果たしている状況です。

学校全体としては、先程からも話に出ているとおり、古き良き学校で、それゆえに腰が重たい面もありますが、走りだしたら非常に早く、それだけの知見と能力がある教員が、たくさん揃っていると思います。それから、ＦＤ研修会も開催しています。九州大学からも講師をお願いしています。

髙松委員長：良くわかりました。

髙松委員長：情報セキュリティの講義を開設されるということですが、情報セキュリティは大学でも大きな問題として捉えており、非常に良いことだと思います。全学科の授業に取り入れたら良いと思います。今は、どの企業でも情報セキュリティに詳しい人材を求めています。

久留米高専は、入学時から学科が決まっていますが、各学科で他学科にも有効な授業は学科内

で閉じないで、各学科で共通して教育して行くことも必要だと考えます。

原田委員：私は、このような席であまり褒めてもしょうがないと思いますが、久留米高専から九州大学大学院総合理工学府に入学してきた学生に対して特に問題があるとは感じていません。久留米高専からの入学生は、非常に優秀な学生が多く、また卒業後も社会でかなり活躍しています。１０年位前までは、英語力が足りないと思っていましたが、それも解消されています。創造性を育むような教育もしっかりされていて、それこそ、アクティブラーニングの一つだと思います。ただこれまで普通に教育して普通に良い学生を出してもらうだけでは、今は評価されず、予算面にも影響が出るというような状況は生まれていると思います。

これは、大学においても同様です。それで、何か特徴を見せなければいけないという所に苦しみを感じられているのが見て取れます。具体的には、組織改革に伴う会議時間の短縮効果とか、学科の名称変更に伴う効果などです。

また、国際化に伴う事務職員の対応をどうするかなど、高等教育機関での課題は多いと思います。基礎教育に関する話として、基本は、「読み」・「書き」・「そろばん」と考えていますが、「そろばん」の部分は良くて、読むこともできるが、日本語の文章を書けない学生が大分増えていると感じています。そこの教育をどうされているのか質問します。

安部一般科目（文科系）学科長：文章を書くことについては、かなり教育していると考えています。例えば、社会の世界史の授業におきましても、高等学校の世界史の授業であれば、特にレポートを書くということはあまり例がなく、世界史の知識を覚えこむだけだと思いますが、本校では、課題としてレポートを課しています。

そのレポートについても、かなり長文になるものを書いていますので、文章を学習する機会は与えていると考えています。また、国語でも試験の際、回答用紙の裏に自由題で作文を書かせるという教育を行っています。

私が試験監督をした際の感想として、本当に全学生が一生懸命書いていると感じました。

内容を見ても大変良く書けているものがあり、一般科目（文科系）としては、日本語で文章を書く機会というのは、かなりあるのではないかと思っています。

原田委員：ありがとうございます。実は、久留米高専の卒業生に対して問題があると言ったのではなく、一般論として伺いました。

和泉教務主事：補足ですが、エンジニアとして文章を書く機会は、やはり実験のレポートと卒業研究論文を書くときが主となりますが、そこをしっかり添削し、指導することが大事であると考えます。

草野委員：今の先生の説明は、論理性のことを言われていると思います。やはり人に説明するときは、ロジカルに物事を考えられないと中々、端的に人には伝えられません。

私も企業で若手を指導しているときに、ロジカル性に欠ける部分を感じることがあります。そういう教育は、高専のようなところであれば、研究を通じて行えるので有効に進めやすいと思いますが、そこの部分について、普段どのように考え指導されているのかということを考えながら聞いていました。

川上材料工学科長：今お話があったようにロジカルに物事を考えるということは、まさに研究の進め方とか、レポートの書き方、最終的には卒業論文という形になると思うのですが、そこでは、いかに自分の思いを人に伝えるかということになりますが、その指導としては、論理的に数値とかデータをベースにし、根拠立てを行い、正確に伝えるよう、常に指導はしています。

草野委員：わかりました。

高松委員長：その他、質疑応答はありますでしょうか。なければ、講評事項のディスカッションを始めますのでよろしくお願いします。



講　　評

高松委員長：（講評）

本日はご説明ありがとうございました。

今、話をまとめましたが、講評としては、全体的に見て非常に良いとの評価でした。

多少、古い体質であるとの評価もあるとも言われましたが、これからも久留米高専の理念を全ての教員の方が共有され、長い目で見た「ドッシリ」とした教育をこれからも続けていただくのが一番いいと思います。ただ、改善点をいくつか申し上げますと、先程、申し上げたとおり、学科を跨いでいくような教育、他の学科の人と知り合う、他の先生同士、他の先生と触れ合うような教育をどこかでやっていただけたらと思います。

それと、やはり高専の目標は教育なので、教育に対する技術というか、教育に対して切磋琢磨していくことが不可欠であると思います。先程、和泉教務主事からの説明にあった、お互いの授業参観やら教育のスキルアップを図る取り組みを引き続き、しっかりとやってもらいたいと思います。

また、校長先生から予算面での説明がありましたが、久留米市や鳥栖市は、しっかりとした産　業があり、産業界においてもこの地区を盛り上げようという積極的な活動をされています。

久留米高専がその核となれるように、地域に根付いた企業、あるいはそこの企業グループとのコミュニケーションあるいはタイアップを更に強くしていただき、そういう企業との連携・協力体制を構築していただければと思います。財政面、情報の共有、人的サポートを受けるなど地域との連携を強化すると地域を活性化する核に久留米高専はなれるものと考えています。

閉会挨拶



三川校長：こちらの段取りが少し悪く、随分、進行が遅れてしまいました。委員長の高松先生には、大変、御迷惑をおかけしました。また、委員の皆様には、長時間にわたり真剣に耳を傾けていただき、そして、非常に私どもの教育研究、学校運営の参考となるご質問やご指摘をいただきまして、本当に感謝の気持ちで一杯でございます。

「頂門一針」と言う言葉がありますが、ブリヂストンの草野九州生産本部長様から、校長ブレたらだめだよ、という励ましをいただき非常にありがたく思った次第でございます。その他、今、纏めていただいた論点の中で参考になる意見をたくさん賜り、大変、在り難く思っております。

それと、ひとつだけ申し上げておきたいことがあります。講評で地域との連携による支援を受けられないかとの意見がございましたが、昨日、久留米商工会議所様と連携協力協定を締結させていただきました。これは、久留米商工会議所様が各方面に呼びかけて、久留米創生特別委員会というものを推進されているものです。その取り組みに久留米高専も積極的に協力させてもらうものであります。

また、それだけではなく本校が持っている教育研究の資源を有用に活用させていただき地域振興に貢献していきたいと考えている次第でございます。

講評で触れられました学科を跨ぐということですが、機構本部から平成２９年度概算要求で“ＫＯＳＥＮ（高専）４．０イニシアティブ”新展開事業という、主に新産業に対する技術者育成を目的とした事業の概算要求がありまして、同事業に対し本校からは、「久留米高専型共創教育による地方創生人材の育成」というテーマで申請しているところであります。

九州大学でも共創学部を新設されることは承知していますが、それを参考とさせていただいた部分もございます。

本校の共創教育では、地域協働教育と専門分野を横断した教育が特長であります。その中でゴムや歯車、医工連携等地域の特色をいかんなく発揮し、今ある資源を発信していく計画です。

本事業の取り組みについて、今回、頂戴した意見で背中を押していただいた気がいたしました。

教育技術のスキルアップについても、和泉教務主事の説明にもありましたとおり、非常に粘り強く取り組んでいるところでありますが、これも非常に勇気付けられました。

また、これも「頂門一針」の一つとして受けとめさせていただきましたが、「久留米高専はドッシリとした教育をやること」など、本日は、大変貴重なご意見をいただきありがとうございました。教職員一同真摯に受け止め、引く続き努力して参りたいと思っています。

本日は年末のお忙しい中お越しいただき、大変ありがとうございました。心から御礼申し上げます。

外部評価の結果

１．評価点

【報 告 事 項 】
（１）前年度の指摘事項について
（２）教育の現状と改善について
（３）教職員人事の考え方について
（４）創造性を育む教育の現状について

	報告事項	高松委員長	原田委員	今泉委員	坂本委員	草野委員	中川委員	荒巻委員	平田委員
評　価	総合	5	5	5	5	4	5	4	4
	（1）	5	5	5	4	4	5	4	4
	（2）	5	4	5	5	4	5	4	4
	（3）	5	5	5	4	3	3	4	4
	（4）	5	5	5	5	5	5	4	5

評　価　点	評　　価　　基　　準
5	優れている、または、適切である。
4	やや優れている、または、ほぼ適切といえる。
3	普通。
2	やや劣っている、または、あまり適切といえない。
1	劣っている、または、適切でない。

2．意見・提言

高松委員長

・全般的に非常に良くやっておられると思います。今後とも久留米高専の理念を全教員が共有して長い目で見たどっしりとした教育を続けて欲しいと思います。
・昨年度の指摘事項に対して適切に対応しておられると思います。特に、組織を見直しておられることは評価でき、その効果が現れることを期待します。また、ＪＡＢＥＥの継続については簡単に結論がでるものではないと思いますので、引き続き検討されるのがいいと思います。
・教育の現状についても１年生と４年生の成績の分析をはじめとして、きちんと把握されていると思います。
・外部評価において、教職員人事について取り上げられたことに敬意を表します。数値目標の設定が困難であることなど十分に理解できました。今後は、新規採用の場合に、分野以外に何を優先項目にするか等についてコンセンサスが得られ、ますます優秀な教員が採用できることを願っています。
・創造性を育む教育の具体例は良く理解できました。情報セキュリティは今後ますます重要となってくる課題ですので、すべての学科の生徒に対して教育されたほうがいいと思います。
・可能であれば、ＰＢＬなど学科を横断した教育のメニューがあればいいと思います。
・高専が各地域に設置されている状況に鑑み、地域との連携や地域貢献を今後の課題とされるといいと思います。

原田委員

・全体的に十二分な尽力がなされており、また、多様な新規試み（会議時間短縮、学科名変更等）の結実も期待できる。
・３ポリシー（ＡＰ、ＣＰ、ＤＰ）に関して、早めに公開し、かつ改善に繋がる微修正を畏れないといった対応が望ましい。
・教員人事に関して、大学とのクロスアポイントメント制度の活用を模索できないか。人員削減が進む中で、試行してみないと有効性が判らないという危険な側面に懸念を持ちはするが、相互に、労力以上の利点があるとも思われる。特に、やる気のある優秀な学生を更に伸ばす効果が期待できる。
・創造性を育む教育に関して、一定割合でいると思われる。この手の活動（特に、他者と協力しての学び）が不得手な学生の対応策は、気になるところであった。できない学生、影に隠れてしまう学生等へのケアの必要性は、如何なっているであろうか。
・全く個人的な意見であるが、「文理融合」が重視されるときには、“何時、何故に「文」と「理」とが分かれてしまったのか、分かれてしまうのか“という疑問が常に頭をかすめる。そもそも、学問に文と理を分ける必然性は無い。優秀な“文系”学生は、物理もできるし、優秀な“理系”学生は、日本語文章も読みやすい。新しい産業の萌芽点として、「文」と「理」との境界が、重要視されてもいる。就職活動や大学受験が、「文」と「理」の枠にはめられている以上仕方の無いことであるとは分っているものの、「文と理を分けない、故に、融合する必要も無い」教育は、一つの理想であろう。長々と書いて些末なまとめだが、美しい、正しい日本語の文章が書ける（自然と英語も得意になると推察される）“理系”学生を育てたいし、育てて欲しい。

今泉委員

・前年度の指摘事項に対して真摯に対応いただいた。ＪＡＢＥＥの必要性については、学校の対応を見守りたい。
・入試広報や留年・退学の抑制については、多大な努力が払われていることが理解できた。なお、日本の高専システムは、アジア諸国では注視されていると聞く。今後の少子化対策として留学生へのアプローチは如何でしょうか。
・教員人事は明確な指針に基づいており、活性化を促す内容であると思う。なお、一定年齢に達すれば学位が無くても教授昇任を認める制度があるとの説明であったように思うが、これには各論もあるのではないだろうか。
・創造性を育む教育の成果仮説は、どのように評価されるのでしょうか。

坂本委員

・実践的な技術者教育の伝統に根ざし、高いレベルの教育を行っていることが、理解出来ました。国語や英語など、基礎学力が不足していると一般には言われておりますが、具体的かつ実践的なカリキュラムを整備し、非常に効果を上げていると思います。
一方、即戦力の技術者であっても、今後は幅広い知識や見識が求められる時代となっております。学科に跨った横串的な教育も必要となると考えます。特に材料工学のような基盤的な分野においては、機械やシステム等との濃密な交流による軸足の見極めが重要となると思います。
・資金獲得に関しては、地域への人材供給や地域企業との協業を更に進めて、地域に根差した活動に注力し、地域からのより一層のサポートを目指すことも一つの方法であると考えます。

草野委員

・教育の現状と改善について：現状良く理解出来ました。低学年でいかに学習に対してモチベーションを上げられるかがポイントと理解しました。他校等を参考にして成功事例を研究されて魅力ある教育プログラム、学校運営を心掛けて下さい。
・教職員人事の考え方について：課題としては理解しましたが、目標が不明確であったと感じましたミッション、ビジョンを明確にされて、ぶれない軸として示される事をお勧めします。
・創造性を育む教育の現状について：様々な取り組みをされており魅力的に感じました。
企画・立案→実験・検証→考察のＰＤＣＡのサイクルが回ることに好印象を持ちました。
・テクノネットを活用した地域連携も視野に入れ、資金面のボトルネックも解消出来るような全体像を描いて進められたら良いと思います。

中川委員

・前年度の指摘事項への対応につきましては、真摯に且つ計画的に改善に取組まれておられることを確認させていただきました。適切であると評価いたします。
・学生の原級留置及び退学に関する改善につきまして、詳細な調査に基づき、各先生方が工夫を凝らし熱心に取組まれています。先生方の熱心な積み重ねは、勉強に意欲を失った学生の心をいずれ開くと感じました。適切な問題意識と効果の期待できる改善への対応は、優れていると評価いたします。
・教員人事の戦略上の課題は、久留米高専のあるべき姿の議論に通じる難しい課題である事が認識できました。今後の取り組みを期待させていただきます。
・創造性を育む教育の現状は、一般教育も大事にし、専門性との連携で柔軟な発想ができる技術者の育成に、日々取組まれていることが分かりました。優れていると評価いたします。

荒巻委員

・運営システムを校長の権限が及ぶようなものにすべき、責任の所在が曖昧。
・教師間の研修や学科をまたいだ教育が必要。
・改正法に伴う特別支援教育の視点を学校運営に生かす。合理的配慮の必要性。
・原級や退学者を減らす取組を→授業改善、軽度の（発達）障害の理解と対応、生徒の学習意欲を高める取組→将来を見据えたキャリア教育、実践的・体験的学習の充実（インターンシップの工夫）。
・ワークライフバランスについて→所定外勤務実態の把握と、所定外勤務時間の縮減への効果的対応→職員のパフォーマンスの向上→進路・学力の保障。
・今後の在り方：生徒・学生のモチベーションの高揚→切磋琢磨、絶え間ないスキルアップ。
地域の事業所との連携。

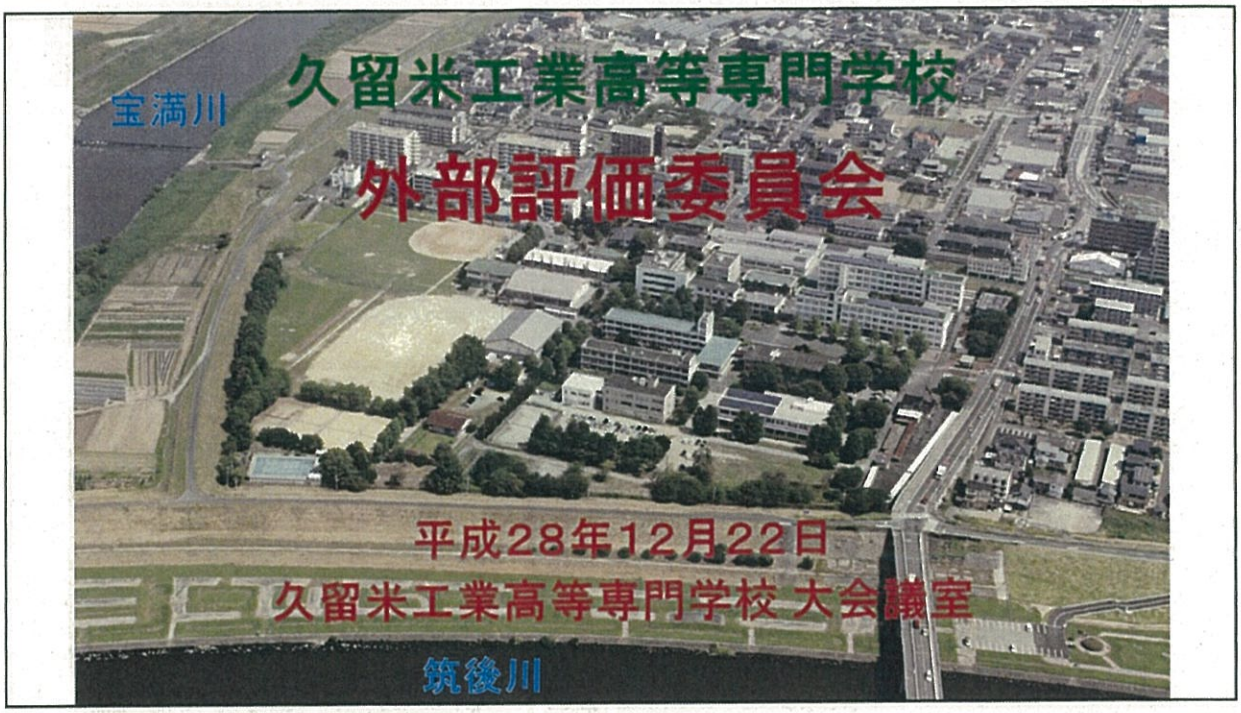
平田委員

・全体としては、問題なく久留米高専の運営ができていると考える。
・自己点検評価書とＰＤＣＡサイクルにより久留米高専の改善、適正化に努力されている。
ＪＡＢＥＥについては、メリット、デメリットを分析されているので、効果的に機能させる方策の検討、または、非継続の判断をするのか、久留米高専内部の方向性は早く決定する必要性を感じた。
・原級留置の発生が１年次の成績によることが分析されているので、１年生に対するより適切な教育・指導の在り方に工夫されることを望む。
・職員人事評価制度は、非常に難しい問題で、色々なシステムを適応しても何らかの課題が発生する。結局はノウハウの蓄積で最適化するしかないと思います。
・高専らしい創造教育を行っている。今後も多くの教科でアクティブ・ラーニング的な要素を盛り込み創造性豊かな技術者を育成してください。

説明資料

前年度の指摘事項について

校長補佐／企画主事　　江　崎　昇　二



資料1－1

昨年度　外部評価委員会での指摘事項

評価分類	内容概略
A	改善継続
B	JABEE継続の必要性検討
C	5年一貫教育の強みの整理
D	繁忙化対策の検討
E	カウンセリング状況の分析
F	外部評価委員会審議項目の検討
G	退学・留年減少対策の検討

本校PDCAサイクル

資料1－2

学校全体PDCAサイクル

Plan　：企画委員会
Do　：各実行部署
Check　：自己評価検討委員会　　自己点検評価書
Action　：各実行部署

企画委員会 ↓　↑ 自己評価検討委員会

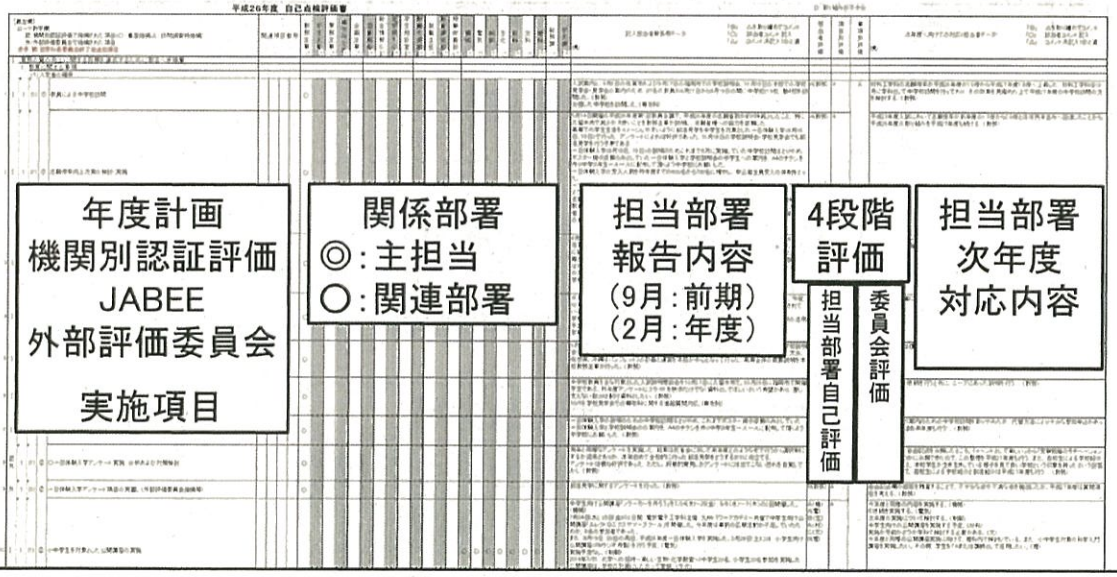
各実行部署PDCAサイクル

Plan　：各主事 等
Do　：各担当委員会 等
Check　：各主事室 等
Action　：各担当委員会 等

外部評価	
毎年	外部評価委員会
5年毎	JABEE（H24中間審査）（H24～26認定）
7年毎	機関別認証評価（H25受審）
7年毎	教育実施状況審査（H27受審）
	監事監査（H25受審）

年度毎の自己点検評価書（HP公開）

資料1－3



本年度 自己点検評価書 外部評価委員会関連抜粋

43	外	1	(2)	A	学生の授業評価アンケート項目の見直し検討(H25外部評価委員会)
87	外	1	B	②	JABEE継続・非継続の検討
98	外	1	(4)	A	大学、大学院との連携強化の方策検討
108	外	1	(4)	A	グローバル人材教育の達成目標と評価方法の導入検討
109	外	1	(4)	A	英語力の達成目標の導入検討
110	外	1	G	⑩	留年・休学・退学者の減少対策検討
123	外	1	E	①	カウンセリングの実施状況の把握および分析
124	外	1	(5)	A	人権意識の確立やDV防止教育の実施
202	外	1	C	⑤	学生指導における5年一貫教育の強みの整理(教育目標等の設定)
211	外	1		A	本科・専攻科進路の県内・県外割合把握、公開(H25外部評価委員会)
269	外	4	D	①	繁忙化対策の検討
302	外	4	F	⑩	外部評価委員会の開催および審議内容の検討

B JABEE継続の必要性検討

JABEE（日本技術者認定機構）とは

大学等の工農理系学科の学生を国際的に通用する技術者を育成する教育プログラムの認定

⇕ JABEEはISO9001の教育版

ISO（国際標準化機構）とは

品質保証された製品を顧客に提供する品質マネジメントシステムの認証

JABEEのメリットとデメリット

メリット	デメリット
認定による対外的評価	認定の社会的認知度低い
認定を通じた教育の改善	機関別認証評価との重複
技術士の一次試験免除	技術士の社会的認知度低い
留学生の受入れ増加 （認定プログラムでないと、帰国後、技術者資格取得に結び付かない）	費用負担 （審査：約300万円、年間維持：54万円） 教員・職員の負担 （審査対応、立証資料の保管等）

技術士とは

・国家資格（難易度A）

科学技術に関する高等専門的応用能力を必要とする事項についての計画、研究、設計、分析、試験、評価又はこれらに関する指導の業務を行う者

国家資格難易度の例
S：司法試験、国家公務員総合職
A：税理士、一級建築士、電験一種
B：宅地建物取引士 、電験三種
C：FP技能士二級、ボイラー技士二級
D：保険師、栄養士、普通自動車免許

技術士の現状

・特定技術分野への偏り

科学技術：21分野　有資格者数：建設部門が45%

・認知度が低い

建設部門では「30代前半までに取得しないと、会社に残ることは難しい」といわれる程 認知度高い　その他20部門は認知度低い

JABEEの必要性の検討状況

・本校JABEE委員会でメリット・デメリット意見集約（5月）

・JABEE事務局への照会（8月）および回答（9月）

（照会）産業界の認知度が低く学生へのメリットにならない

企業の人事・人材開発関係の方にJABEE認定審査についての理解を深めて頂くために、実地審査の見学制度を計画し、本年度はその試行を行う予定。
高専機構との意見交換でも同様のご意見、ご指摘を頂いておりますので、もし可能でしたら全国校長会等の場で説明させて頂くことも検討いたします。

・九州沖縄地区専攻科長等会議（11月）で協議

H27、H28に多くが継続審査を受審、各校でも継続・非継続の議論あり。
沖縄高専は今年度までとし、準備した体制は継続する方向。

→ 引き続き継続・非継続について検討していく

C 5年一貫教育の強み（教育課程以外）

◎年齢構成（高校生＋大学1,2年生）

全学生参加の文化祭・体育祭・クラスマッチ
高専のみの体育大会・各種コンテスト（1～5年生参加）

◎自立を促し、広い視野・豊かな心・創造性を育む環境

高学年主導の学生会活動・クラブ活動
学生数 200名/学年に対するリーダー数 ： 112名
学生会部局 ：7 高専祭部局 :41 寮生会役員 ： 9
体育系クラブ:18 文化系クラブ:17 クラス（1学年）:20
→ 多くの学生がリーダーとフォロワーを経験

◎自立に主眼を置いた教員の指導

学生会活動を支援する学生主事室（教員6名）
全教員クラブ顧問、大半が毎日指導するわけではない

高校：誘導形式の指導
大学：自立を前提とした指導
⟷
高専：自立を促す指導

本校の教育理念

自立の精神と創造性に富み
広い視野と豊かな心を兼ね備えた
社会に貢献できる技術者の育成



［技術者の木］

D　繁忙化対策の検討 →H29 校内組織改革

改革の目的と現状の問題点

①体制強化

(1) 重要な委員会に校長が入っていない

(2) 学科長委員会委員ではない委員長がある

②意思決定プロセスの透明化

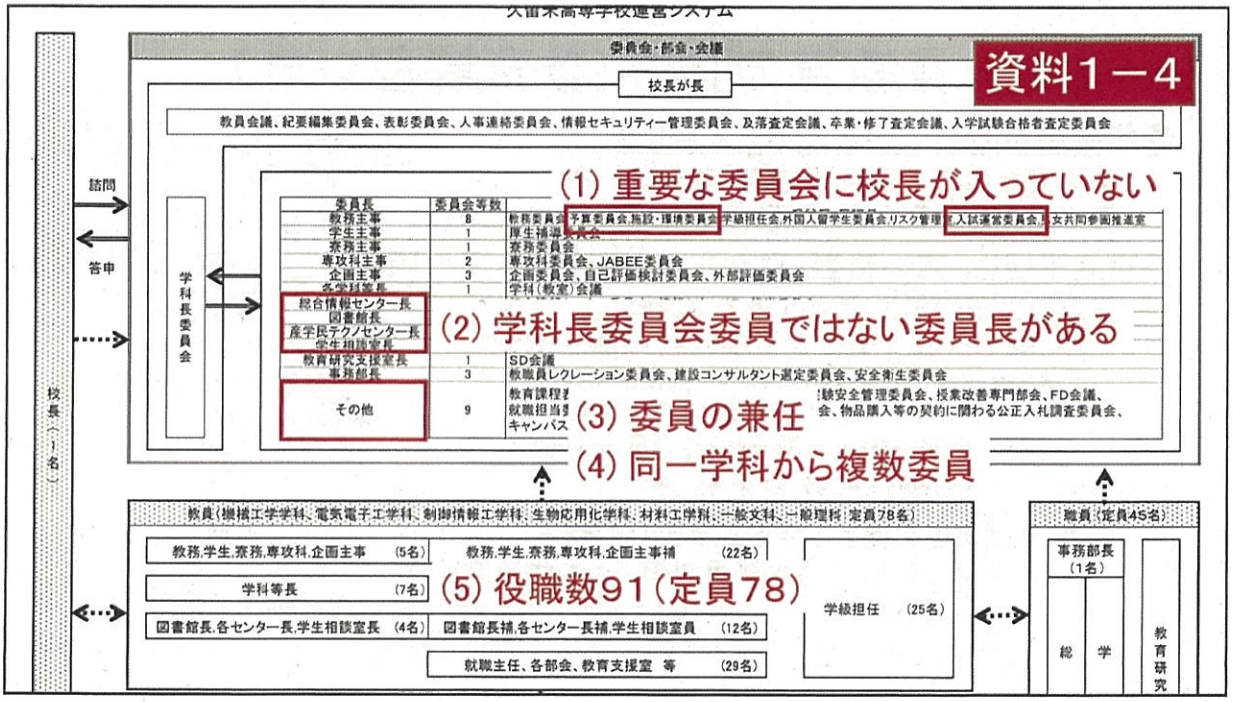
(2) 学科長委員会委員ではない委員長がある

③業務負担のバランス、効率化および軽減

(3) 委員の兼任→直列・並列開催不可→16:40以降委員会開催

(4) 同じ委員会に同一学科から複数の委員

(5) 役職数91（定員78）→兼任（主事補と担任等）



現状の問題点と対策

(1) 重要な委員会に校長が入っていない
→ 予算、施設環境、入試運営委員会の委員長は校長とする
(2) 学科長委員会委員でない委員長がある
→ 全委員長を運営(学科長)委員会委員とする
(3) 委員の兼任→直・並列開催不可→16:40以降開催
→ 主要6委員会(5主事,産学民TC)の委員は相互に兼任しない
(4) 同じ委員会に同一学科から複数の委員
→ 委員構成を委員長＋7学科各1名＋担当事務とする
(5) 役職数91(定員78)→兼任(主事補と担任等)
→ 役職数を71(定員数−7)とし、原則兼任しない

対策により予想される効果

主要委員会の委員長を校長にする
全委員長を運営(学科長)委員会の委員にする

→ ガバナンスの強化(俯瞰性と迅速性の向上)

主要6委員会の委員は相互兼任しない
委員会構成を委員長＋7学科各1名＋担当事務とする
役職数を71(定員数−7)とし、原則兼任しない

→ 繁忙化対策(延会議時間1割減、負荷のバランス)

→ 業務効率化(会議の水曜日午後開催原則化)

E　カウンセリング状況（不登校）の分析

不登校の定義

（小中高）

何らかの心理的、情緒的、身体的、あるいは社会的要因・背景により、児童生徒が登校しないあるいはしたくともできない状況にあること（ただし、病気や経済的理由によるものを除く。）

年度間に連続又は断続して30日以上欠席した児童生徒のうち不登校を理由とする者。

（大学・高専）

共通の定義がない。個別の調査研究で、必要出席数半分以下、3か月以上連続、6か月以上連続などがある。

→ 今回本校調査：4週連続で欠席した学生を分析

不登校者の比率（大学以外は平成26年度データ）

小学校	0．39％（学年とともに増加）
中学校	2．76％（学年とともに増加）
高校（全日制）	1．1％　（学年とともに低下）
高校（国立）	0．5％
高校（公立）	1．1％
高校（私立）	1．1％
大学	2．68％（H20年度 19,068名アンケート調査）
本校	1．15％（本科）1．17％（本科+専攻科）

→ 少ないとは言えない

本校の不登校者数とカウンセリング数

（　）は内数でカウンセリング実施者数

学年	不登校者(H26)			カウンセリング件数				
	計	退学者	留年者	H26	H25	H24	H23	H22
1年	1 (0)	0 (0)	1 (0)	21	7	0	5	3
2年	3 (2)	2 (1)	1 (1)	5	20	34	19	4
3年	5 (2)	4 (1)	1 (1)	23	24	0	0	3
4年	2 (1)	2 (1)	0 (0)	25	14	1	24	4
5年	1 (0)	1 (0)	0 (0)	6	6	3	16	0
専攻科	1 (0)	1 (0)	0 (0)	0	2	10	0	7
計	13 (5)	10 (3)	3 (2)	80	73	48	64	21

低学年は学年毎に増加　カウンセリングにより退学回避　カウンセリング数と学年の相関は低い

カウンセリングと不登校の観点での今後の対応

○ 管理方法の検討

- 理由および比率
- 統計および分析（理由、年度、学年、学科等）

○ 組織的対応方法の検討

- 2者（担任,学生）面談の定例化
- 定期的な学生相談室と担任・学科の連携

G　退学・留年減少対策の検討

→「教育の現状と改善について」

で教務主事から報告



説明資料

教育の現状と改善について

副校長／教務主事　　和　泉　直　志

教育の現状と改善について

教務主事・副校長

和泉直志

内容

1. 学校の概況
   - 高専制度・学生数・教職員数
2. 出口と入口
   - 進路状況・入試状況
3. 課題と改善
   - 材料工学科 学科名称変更
   - 障害者差別解消法への対応
   - 留年者・退学者数
   - 三つの方針策定（DP, CP, AP）
   - Webシラバス
4. まとめ

2

高専では技術者になるための「専門の技術・知識」を学ぶ!

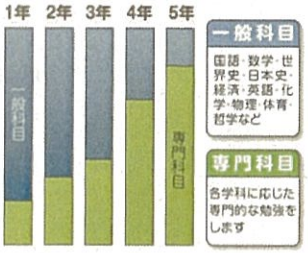
KOSEN NAVI

高校（3年）＋大学（4年）＝高専（5年）を目指しています!

- 1～3年生から、大学と同じような専門科目を学びます。
- いわゆる"受験勉強"がないので、効率的な学習ができます。
- 実験・実習・卒業研究などの時間は大学の約2倍もあります。

1年生から専門教育を少しずつ増やしていく「くさび型教育」方法。これによって一般科目と専門科目をバランスよく学び、4年制大学とほぼ同レベルの専門知識が得られます。

初等教育	中等教育		高等教育
	前期中等教育	後期中等教育	
小学校 6年	中学校 3年	高等学校 3年	大学 4年 短大
		高専 本科5年	専攻科 2年
児童	生徒	学生	



高専は15才で入学できる 工学部

学術 と **ものづくり** とを巧みに結びつける優れたセンスと，そこから生まれるアイディア（発想）を実践する力に裏打ちされた **技術者魂**

⇒ 高専スピリッツ（小畑 高専機構理事長）

3

在校生数・教職員

2016.4 .1 ()は女子で内数

本科

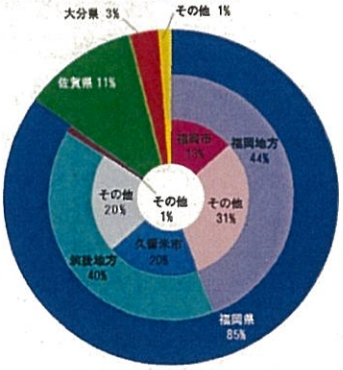
学科	入学定員	総定員	現員 1年		2年		3年		4年		5年		計	
機械工学科	40	200	43	(5)	40	(2)	42	(0)	50	(0)	37	(0)	212	(7)
電気電子工学科	40	200	43	(4)	42	(4)	40	(3)	38	(4)	38	(5)	201	(20)
制御情報工学科	40	200	44	(6)	42	(9)	42	(7)	42	(5)	39	(3)	209	(30)
生物応用化学科	40	200	43	(17)	42	(12)	49	(24)	42	(26)	33	(18)	209	(97)
材料工学科	40	200	43	(13)	41	(12)	45	(11)	42	(14)	38	(7)	209	(57)
計	200	1000	216	(45)	207	(39)	218	(45)	214	(49)	185	(33)	1040	(211)

専攻科

専攻	入学定員	総定員	現員 1年		2年		計	
機械・電気システム工学専攻	12	24	16	(0)	22	(1)	38	(1)
物質工学専攻	8	16	13	(4)	12	(4)	25	(8)
計	20	40	33	(4)	34	(5)	67	(9)

留学生

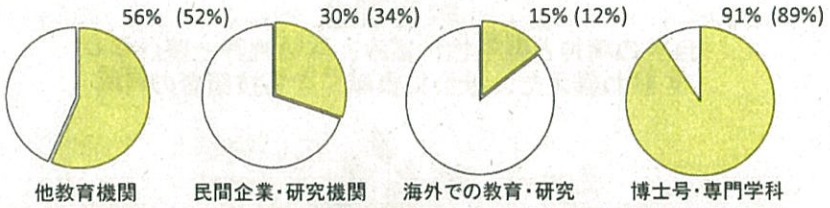
出身国	受入数 1年	2年	3年	4年	5年	計
インドネシア			1	1		1 (0)
マレーシア			2 (1)	1	3	6 (1)
バングラデシュ					1	1 (0)
ガボン				1		2
モンゴル			1			1
計			4 (1)	3 (0)	4 (0)	11 (1)



4

教員・職員

教員の経歴・学位



	教育職員						技術職員	事務職員	合計
	校長	教授	准教授	講師	助教	計			
定員	1	36	35	0	7	79	45		124
現員	1	29(3)	31(2)	8	7 (1)	76(6)	16	29	121
一般文科		4(3)	5		2[1]	12(3)			
一般理科		3	6(1)	1	1	11(1)			
機械		4	5	1	1	11			
電気電子		4	4(1)	3		11(1)			
制御情報		6	3		1	10			
生物応用化学		6	4	1	1(1)	12(1)			
材料		2	4		2[1]	8			

( )は女性・内数 [ ]は再雇用フルタイム教員・内数
他に再雇用短時間雇用教員 材料 1
電気電子には休職補充教員任期付き1名を含む

5

久留米高専の歴史

学校要覧 P.5

1939　久留米高等工業学校設立 （修業年限3年・高等教育機関）
1949　九州大学に包括（九州大学久留米工業専門学校）
　　校内に九州大学教養部第二分校 開設
1951　九州大学久留米工業専門学校 閉校(卒業生2,654名)
1958　久留米工業短期大学設立（修業年限2年）
1961　同 附属工業高校設立 （修業年限3年）
　　} 高専のモデル
（1961.10 高等専門学校制度 1962.4 国立高専12校 開校）
1964　久留米工業高等専門学校 開校 （修業年限5年）
1993　専攻科設置 （修業年限2年）
2014　久留米高専創基75周年・創立50周年

卒業生・修了生 約13,000人

6

本校の教育理念・目標

学校要覧 P.6

教育理念

自立の精神と創造性に富み、広い視野と豊かな心を兼ね備えた、社会に貢献できる技術者の育成

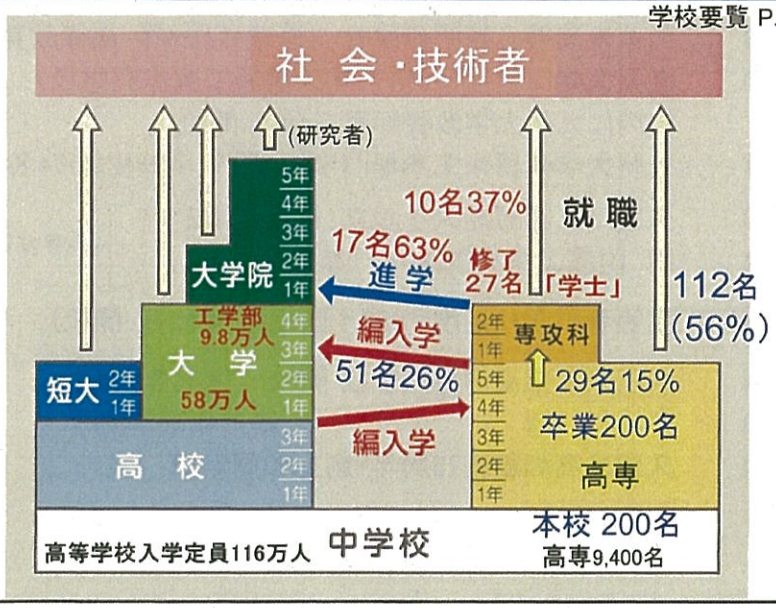


［技術者の木］

7

平成27年度 本科卒業生・専攻科修了生の進路

学校要覧 P.31



8

本科卒業生の主な就職先 H28.3 卒業

機械工学科	電気電子工学科	制御情報工学科	生物応用化学科	材料工学科
東洋鋼[illegible]	関西電力	中国電力	大阪ガス	宇部興産
三菱化[illegible]	西部ガス	[illegible]	東燃ゼネラル石油	新日鐵住金
日本精[illegible]	[illegible]燃ゼネラル石油	中部電力	DIC	京セ[illegible]
IHI	ソニーセミコンダクタ	TOWA	大日精化工業	DOWAサーモエンジニアリング
ジャパンユナイテッド	[illegible]分キャノン	トヨタプロダクションエンジ	昭栄化学工業	NOK
三菱日立パワーシステムズ	東芝メディカルシステムズ	NSウェスト	花王	日本精工
ダイ[illegible]	NTTフィールドテクノ	セイコーエプソン	関西クリコ	日本ピストンリング
ダイキン工業	パナソニックシステムネットワーク[illegible]	[illegible]コミュニケーションシステム	ニプロ	シマノ
ニコン	JR東海	キヤノンシステムアンドサポート	アステラスファ[illegible]	ダイキン工業
ANAベースメンテナンステクニクス	JALエンジニアリング	富士通九州システムサービス	シオノギ分析センター	三井三池製作所
国立印刷局	福岡市[illegible]	[illegible]電機ビルテクサービス	化学及血清療法研究所	コベルコ科研

素材　機械部品　造船・重機　自動車　一般機械　精密機械　運輸　公務員　電力・エネルギー　半導体　自動車　精密機械　情報・通信　機械保守　化学　食品　医薬　素材　機械部品　一般機械

求人・就職状況

学校要覧 P.31

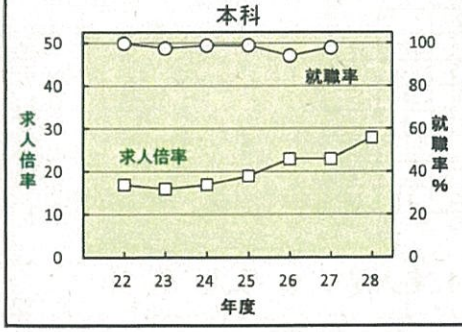
平成27年度本科卒業生

就職 112名
- 電気ガス9
- 製造業89
- 情報通信4
- 運輸2
- 卸売小売1
- サービス6
- 公務員1

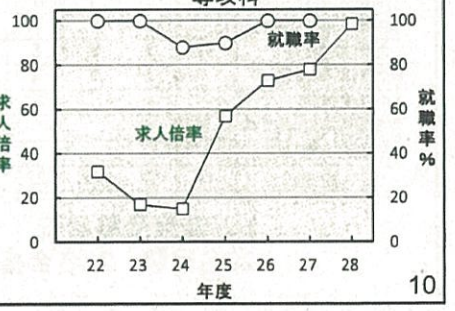
H28年度卒業予定 H28.11現在

学科	求人数	就職希望者 男子	就職希望者 女子	就職希望者 計	内定者 男子	内定者 女子	内定者 計
機械	802	18	0	18	18	0	18
電気電子	792	17	3	20	16	3	19
制御情報	675	23	3	26	22	3	25
生化	431	9	15	24	9	15	24
材料	453	19	4	23	18	4	22
本科計	3,153	86	25	111	83	25	108
機電	676	5	1	6	5	1	6
物質	408	3	2	5	3	2	5
専攻科計	1,084	8	3	11	8	3	11

本科



専攻科



10

本科卒業生 編入学先 平成23～平成27年度

学校要覧 P.31

卒業年度	23	24	25	26	27	28
長岡技科大	2	3	6	2		1
豊橋技科大	7	8	9	6	10	7
室蘭工大						1
東北大学					3	
筑波大学	2	2	1	2	2	3
千葉大学		1	1	1	1	
東京大学	1	2				
東京工業大学	1	1	4	3	1	2
東京農工大学	1		2			
電気通信大学					1	
横浜国立大学	1		1	1		
首都大学東京		2	1	1		
名古屋大	1			2	1	
奈良女子大						1
大阪大学	1	2			1	2
神戸大学	1			1	2	1
岡山大学	1				1	
広島大学		2	1	1	1	

卒業年度	23	24	25	26	27	28
九州大学	8	7	7	5	11	3
九州工業大学	8	11	6	5	8	6
佐賀大学	2	7	2		2	2
大分大学						
熊本大学	2	3	5	6	4	3
宮崎大学		1				
鹿児島大学		1		1		2
琉球大学		1		1		
芝浦工大					1	
関西大学					1	1
福岡大学	1					
九州造形短大		1				
大学合計	43	57	50	42	51	35
本校専攻科	31	28	30	33	29	29

28年度 進学希望者		
男子	女子	計
65	8	73

H27年度 受験状況
九州内国立大学 45名受験 29名合格 25名入学
九州外国立大学 41名受験 19名合格 14名入学(技科大は除く)

11

専攻科修了生 進学先大学院 平成22～平成27年度

学校要覧 P.31

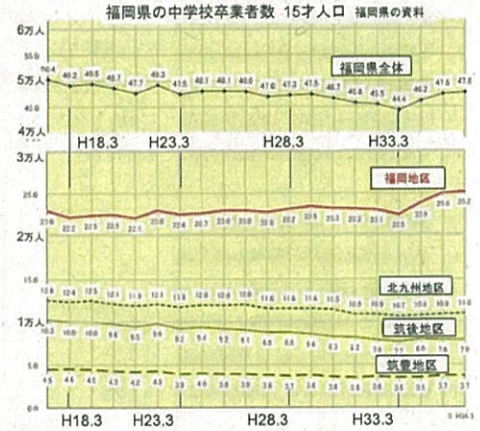
修了年度	22	23	24	25	26	27	28
長岡技科大	1			1			
北陸先端技科大				2			2
奈良先端技科大							
北海道大学			1	1			
東京大学		1	1	1			1
東京工業大学	3	2	1	4	1	2	
電気通信大学							
筑波大学		1	1			1	1
名古屋大学	1				1		
京都大学			1	1	2		
大阪大学						2	2
九州大学	10	5	9	5	15	10	12
九州工業大学		3	1	4	1	1	
北九州大学						1	
情報科学芸術大学	1						
早稲田大学	1			3			2
合 計	17	12	15	22	20	17	20

専 攻	平成28年度 進学希望者		
	男子	女子	計
機 電	13	0	13
物 質	5	2	7
専攻科計	18	2	20

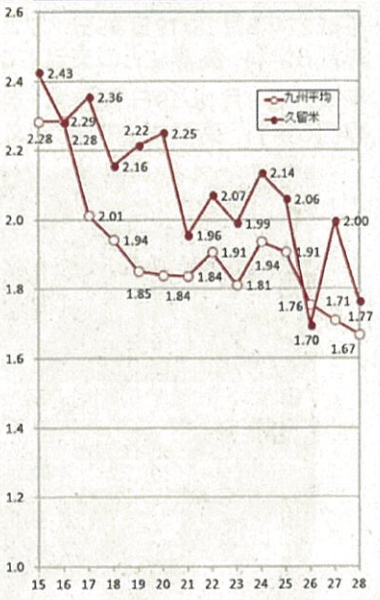
H27年度受験状況
29名受験，22名合格，17名入学

12

入学年度	22	23	24	25	26	27	28
機械工学科	2.0	1.5	2.1	2.3	1.5	1.7	2.1
電気電子工学科	1.8	2.2	2.4	1.6	1.6	1.8	1.5
制御情報工学科	2.1	2.1	2.3	2.7	2.2	2.7	2.3
生物応用化学科	2.9	2.6	2.3	2.5	2.2	2.0	2.1
材料工学科	1.5	1.6	1.6	1.2	1.0	1.8	0.9
志願倍率	2.1	2.0	2.1	2.1	1.7	2.0	1.8
志願者	414	398	427	412	339	399	353
推薦志願者(内数)	109	110	128	131	95	94	109



入試の状況



13

本科入試日程・入試広報

推薦 願書受付 H29.1.10(火)～1.13(金)
入学試験 H29.1.21(土)
(適正(数学)検査・面接検査)
結果発送 H29.1.27(金)

学力 願書受付 H29.1.30(月)～2.2(木)
入学試験 H29.2.19(日)
(マークシート方式)
合格発表 H29.2.27(月)

入学手続き 公立高校入試日(3.8)

学科名	募集人員	うち推薦による募集
機械工学科	40名	8名程度
電気電子工学科	40名	8名程度
制御情報工学科	40名	8名程度
生物応用化学科	40名	8名程度
材料システム工学科	40名	8名程度

H28.6 中学校宛資料送付 中3生 25,000人分
(一日体験入学ほか入試広報)

H28. 8. 18(木), 19(金)
一日体験入学(585名) [584]

H28. 9. 4(日) 久留米・有明・佐世保合同説明会
(佐賀市 台風のため中止)

H28. 8～9 中学校等訪問(教員36人 200校)

H28.10. 2(日) 福岡3高専合同学校説明会
(福岡市 全体171名 本校113名)[191,122]

H28.10. 22(土) 塾主催中学高校進路相談会(糟屋町)

H28.10. 15(土) 学校説明会・見学会(本校 349名)[349]

H28.10. 24(月) 入試説明懇談会(本校 先生59名)
H28.10. 25(火) 〃 (福岡市 先生45名)
H28.10. 26(水) 〃 (佐賀市 先生 6名)[56,30,12]

H28.11. 3(木祝) 進路相談会(高専祭文化祭)

H28.11. 12(土) 学校説明会 (本校 91名)[96]

H28.11～12 材料工学科 中学校訪問(32校)

14

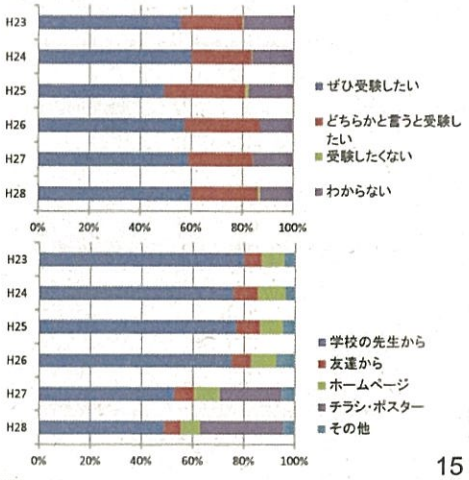
一日体験入学(オープンキャンパス)

平成27年8月18/19日 45分×7コマ　定員350名×2日
専門5学科，高専生との交流(文科)，マークシート説明(理科)

平成28年8月18/19日 開校式・学校説明40分+45分×6コマ 定員350名×2日
専門5学科，高専生との交流(文科)，学校説明(理科)







15

材料工学科改組

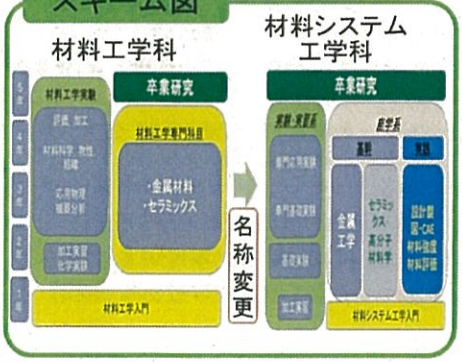
改組概要

1962 久留米工業短大　金属工学科
1987 久留米工業高専　材料工学科

・**材料の開発・設計・製造から利用，その後の寿命による破壊，廃棄，リサイクルまでを『材料のシステム』として学ぶ環境に相応しい名称とするため**，材料工学科を材料システム工学科と名称変更する

・名称変更により，高度経済成長期に整備された社会インフラの長寿命化，メンテナンス等「安心・安全」な社会を実現するためのニーズや，金属・セラミックス・高分子材料に関する技術に加え，ものづくりに関わる広範囲にわたる工学知識を持つ技術者へのニーズに対応する

スキーム図

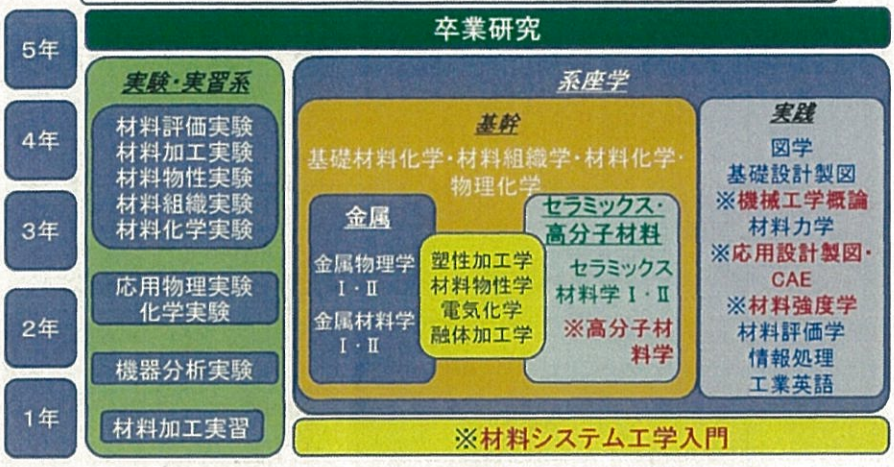


改組による効果

・材料の研究開発から製造・利用・廃棄までのイノベーションにつながる人材の育成ができる
・製造現場を支える複合融合技術としての材料がわかる実践的な技術者の育成ができる
・地域・社会ニーズを踏まえた新分野・領域への教育ができる(航空宇宙材料，社会インフラの寿命予測・延命技術)
・材料の『ゆりかごから墓場まで』のシステマティックな教育が実現できる

16

材料システム工学科　本科　専門科目



① 設計製図、機械加工、破壊を中心とした材料強度に関する科目の拡充、導入
② CAE・計測技術教育の導入
③ 高分子材料を取り入れた材料工学分野の拡充
④ グローバル人材の育成

削減する科目：金属製錬など材料プロセスに関する講義・演習科目、結晶学に関する科目

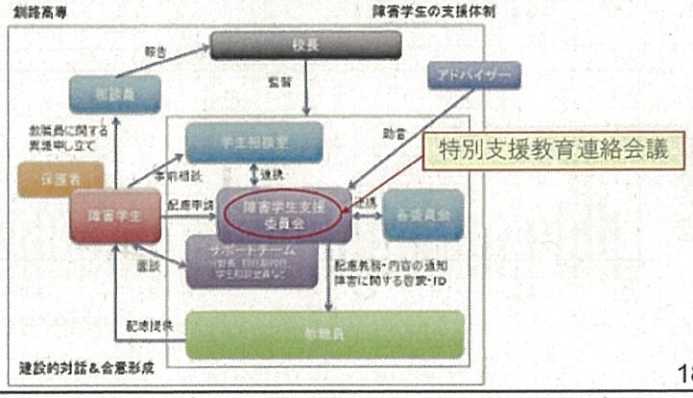
17

久留米工業高等専門学校 特別支援教育連絡会議規定の制定について

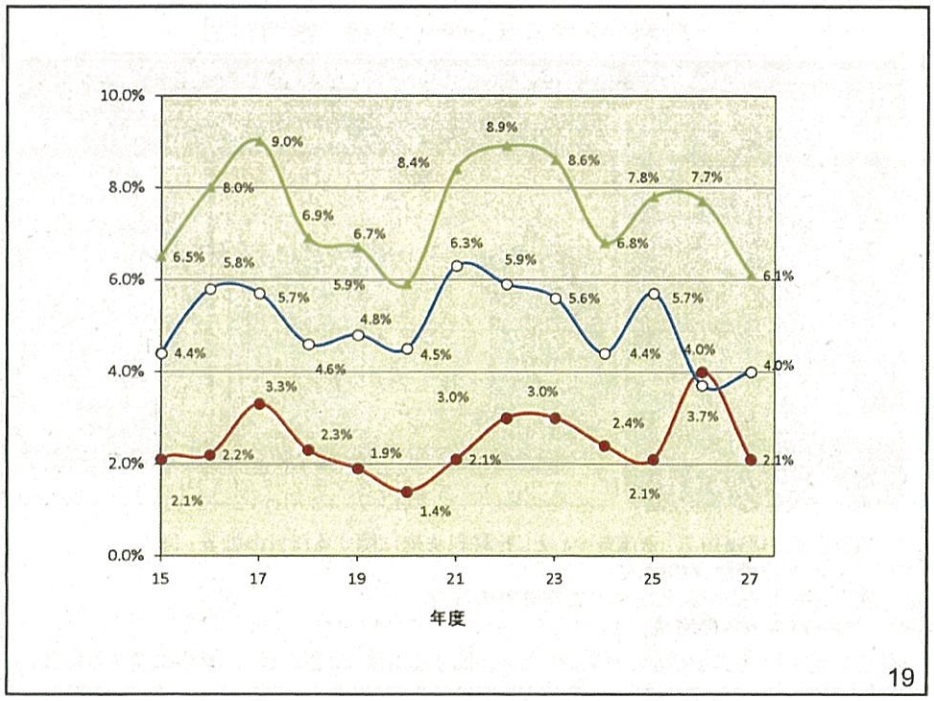
目的　久留米工業高等専門学校 特別支援教育連絡会議を設置し，障害者からの相談に的確に対応する．

経緯　平成28年3月25日制定　理事長裁定
（独）国立高等専門学校機構における障害を理由とする差別の解消の推進に関する対応要領

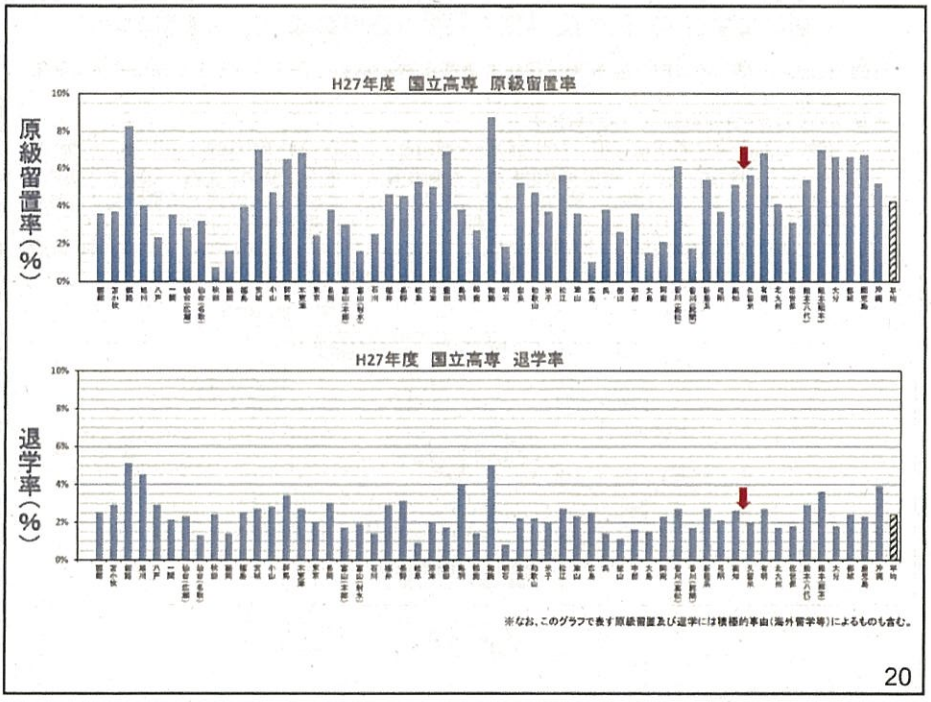
第1条 この対応要領は，障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（平成25年法律第65号）第9条第1項の規定に基づき，また，障害を理由とする差別の解消の推進に関する基本方針（平成27年2月24日閣議決定。）に即して，法第7条に規定する事項に関し，独立行政法人国立高等専門学校機構（以下「機構」という。）の役員及び職員（非常勤の役員及び職員を含む。以下「役職員」という。）が適切に対応するために必要な事項を定めたものである。



18


10.0%
8.0%
6.0%
4.0%
2.0%
0.0%
15
17
19
21
23
25
27
年度
6.5%
8.0%
9.0%
6.9%
6.7%
5.9%
8.4%
8.9%
8.6%
6.8%
7.8%
7.7%
6.1%
4.4%
5.8%
5.7%
4.6%
4.8%
4.5%
6.3%
5.9%
5.6%
4.4%
5.7%
4.0%
4.0%
2.1%
2.2%
3.3%
2.3%
1.9%
1.4%
2.1%
3.0%
3.0%
2.4%
2.1%
3.7%
2.1%

19

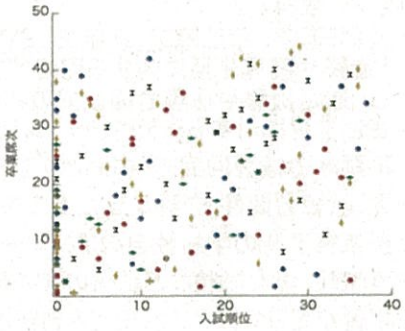

H27年度　国立高専　原級留置率
原級留置率（%）
H27年度　国立高専　退学率
退学率（%）
※なお、このグラフで表す原級留置及び退学には積極的事由（海外留学等）によるものも含む。

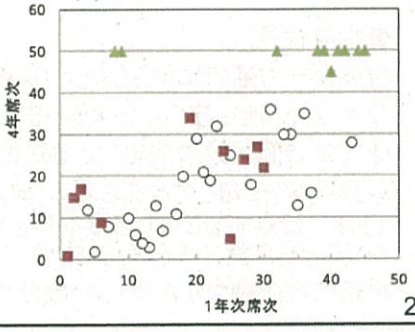
20

	原級留置者数 H25～H27					
	1	2	3	4	5	学科別
機械	1	4	7	32	3	47
電気	3	2	13	14	2	34
制御	1	8	14	16	4	43
生化	2	0	27	2	0	31
材料	0	0	18	12	3	33
合計	7	14	79	76	12	188
年平均	2.3	4.7	26.3	25.3	4.0	62.7

原級留置者数は原級留置となった退学者を含む

	退学者数 H25～H27					
	1	2	3	4	5	学科別
機械	1	2	4	6	2	15
電気	1	5	7	5	1	19
制御	0	4	8	6	2	20
生化	1	1	9	1	0	12
材料	1	0	10	5	0	16
合計	4	12	38	23	5	82
年平均	1.3	4.0	12.7	7.7	1.7	27.3





21

平成28年4月　本科における退学率及び原級留置率に係る調査（調査）

Q. 実施している取組等とその効果や成果

各教員が原級留置者や退学者を減らす取り組みを行ってきている．そのような中で平成27年4月に着任した校長の指揮の元，原級留置を学校全体で取り組むべき問題と認識し，全校的取り組みを開始している．

（全体）

- 学生による授業評価アンケートと，これを元にした教員の自己点検と改善．
- FD会議でのALやルーブリック，障がいのある学生への対応などの講演．
- 入学後の学科ミスマッチを防ぐためのオープンキャンパスでの全学科経験．（平成28年度入学生213名のうち，157名がオープンキャンパス参加者）
- 新入生およびその保護者，在校生保護者への原級留置状況，入学試験成績と卒業成績の間に相関がないこと，１年次成績が重要であることの説明．
- 後援会総会・学校現況報告での原級留置状況の説明．
- 再試験を実施できる再教育期間の設定
- 学科長，担任，科目担当ほか関係する全教員が学生の出欠状況を確認できるよう，教務Webシステムへの出欠記録の即時入力の依頼．（H28）

22

（学科・教科）

・就職・進学，希望職業・進学先，高専生活やこの一年の目標などを尋ねる「進路や高専生活に対する記名式アンケート」を1年生から4年生まで実施し，進路指導や保護者面談での利用とともに，将来と今すべきことを意識させ学習に対するモチベーション向上を図っている．（電気，H28）

・再試験の複数回実施（中間と期末それぞれに対して2回以上）（生化）

・課題（練習問題）を解かせた上での再試験実施（生化）

・授業終了時の学科独自のアンケート実施とそれによる授業改善．（材料）

・再試験・再々試験など試験の複数回以上の実施（材料）

・学習が足りていない状況だと判断された場合の補講・補習の実施（材料）

（低学年教員）

・授業が一方通行にならないような発問ややり取りの工夫（数学）

・分からない所を貯めないよう小まめにな小テスト、再テストの実施（数学）

・ほぼ毎時間課題の提出による知識の定着促進（数学）

・教員・学校に頼って与えられる（何かしてもらう）のを待つのではなく、学生自身が行動することで必要な事を得られる（そうしなければ得られない）ということを自覚させる指導（物理）

・授業内容の幾つかの章への細分化と，確認テストと結果のフォロー（化学）

23

（低学年教員）

・定期試験の成績の悪い学生に対する勉強の仕方の問題点を確認させる個別指導（英語）

・試験点数，平常点を記入する個人成績表を作成させることによる自分の状況自覚促進（英語）

・基本問題と応用問題の構成による試験問題の工夫（英語）

・理解徹底と相互に教え合う雰囲気づくりのための授業へのペア活動取り入れ（英語）

・提出課題設定による苦手な学生の努力の平常点への反映（英語）

・普段の家庭学習や試験勉強でやっておくべきことリストの学期初めでの配布（英語）

・定期試験後訂正ノート作成による学生自身での学習の問題点の自覚と改善策考案，これをもとにした担当教員のアドバイス．（英語）

・挨拶と声かけによる不断の状況観察（社会）

24

Q.学生の原級留置及び退学に関する改善計画調査（平成28.12）

黒字：高専機構方策案，赤字：本校方策案

①基礎教育等の充実	1	高専手帳の導入
	2	低学年対象に朝学習の時間を設定
	3	学生寮における寮生の学習会（上級生も含む）
	4	中学校数学の復習
	5	少人数教育
	6	成績不振者及び希望者を対象とした補習
	7	オフィスアワーの設定及び周知
	8	教室に入れない学生に対応するサポートルームの設置
	9	高学年生から低学年生への補習
	10	保護者との連絡体制強化
	11	OBによる懇談会（体験談、アドバイス、質疑応答等）
	12	（その他）再試験の実施

②教育方法の改善	1	一般科目と専門科目の教員の連携
	2	学科横断的なカリキュラムの連携
	3	学生による授業アンケートのWeb化及び結果のフィードバック
	4	教員相互の授業参観（FDとしての）
	5	原級留置率が特に高い特定の教員への授業改善アドバイス
	6	不合格者が40%以上の科目担当教員に対する指導
	7	クラスの平均点が合格点未満の担当教員に対して自助努力を促す仕組みの構築
	8	Webシラバス（カリキュラムポリシー）による授業計画・成績評価
	9	その他(評価に関するFDの実施)
	10	その他(試験問題の相互閲覧)
	11	その他（科目不合格の場合の学生への説明）

25

③適切な入試広報の実施	1	広報の場において、高専教育への興味を最優先し、単に就職・進学が有利であることを理由に志願しないよう呼びかけ
	2	一日体験入学での全学科経験
	3	1年次成績（基礎学力）が重要であることを新入生保護者へ説明
	4	その他（中学生・保護者のアドミッションポリシーの理解促進）

⑤柔軟な進路サポート	例1	低学年生に対し、具体的なキャリアパスの提示
	1	低学年への、専門導入授業の実施
	2	工場見学旅行の実施
	3	就職・進学説明会の実施
	4	低学年からのキャリア教育

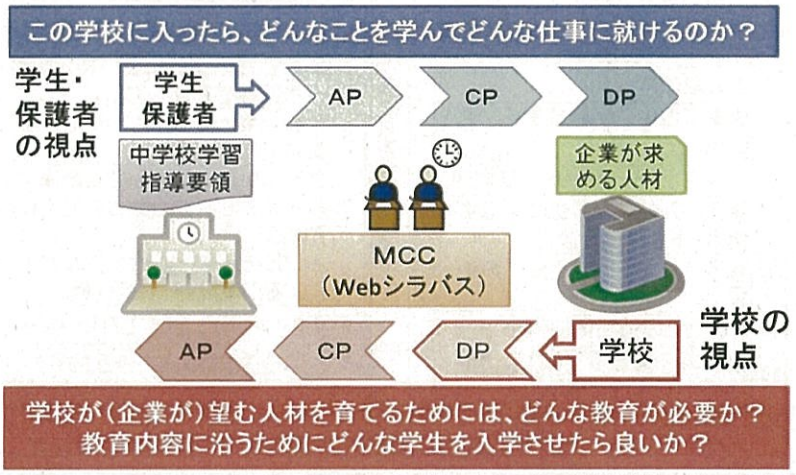
④単位制の弾力的な取扱（既修得単位の取扱）	例1	原級留置となった年度に修得した単位は、既修得単位として取扱い、次年度の再履修を不要とする
	例2	仮進級制度の導入
	1	原級留置となった年度に修得した選択科目の単位は、既修得単位として取扱い、次年度の再履修を不要とする
	2	留学・特殊事情による場合の弾力的な単位取扱
	3	原級留置となった学生が進路変更（退学）のする場合，一定の条件を満たしていれば学年修了を認めている．

26

「三つの方針」の策定　学校教育法施行規則

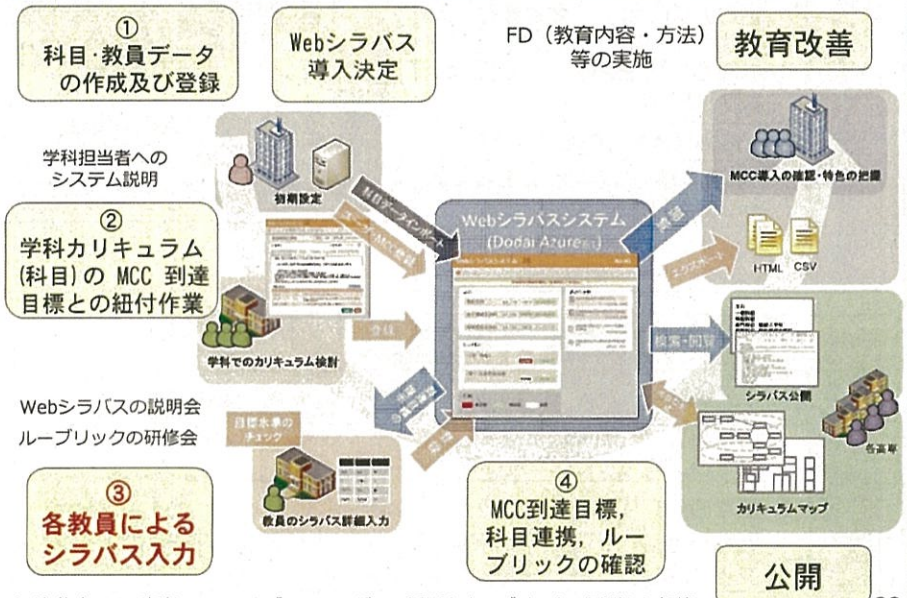
第百六十五条の二 大学は、当該大学、学部又は学科若しくは課程ごとに、その教育上の目的を踏まえて、次に掲げる方針を定めるものとする。(平成28年度中に策定・公開)

一 卒業の認定に関する方針　Diploma Policy
二 教育課程の編成及び実施に関する方針　Curriculum Policy
三 入学者の受入れに関する方針　Admission Policy



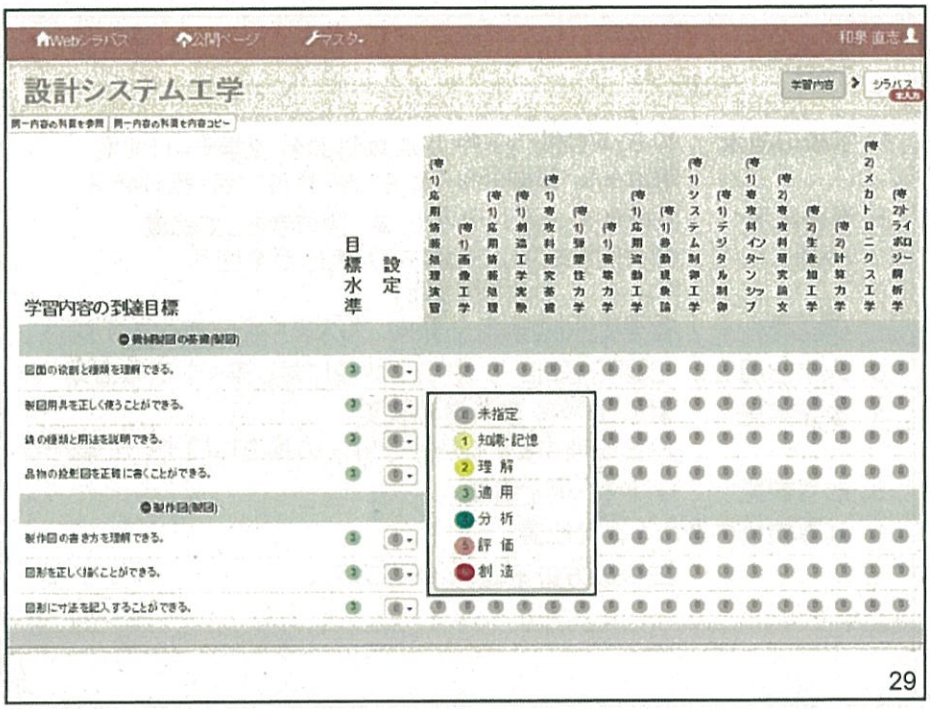
27

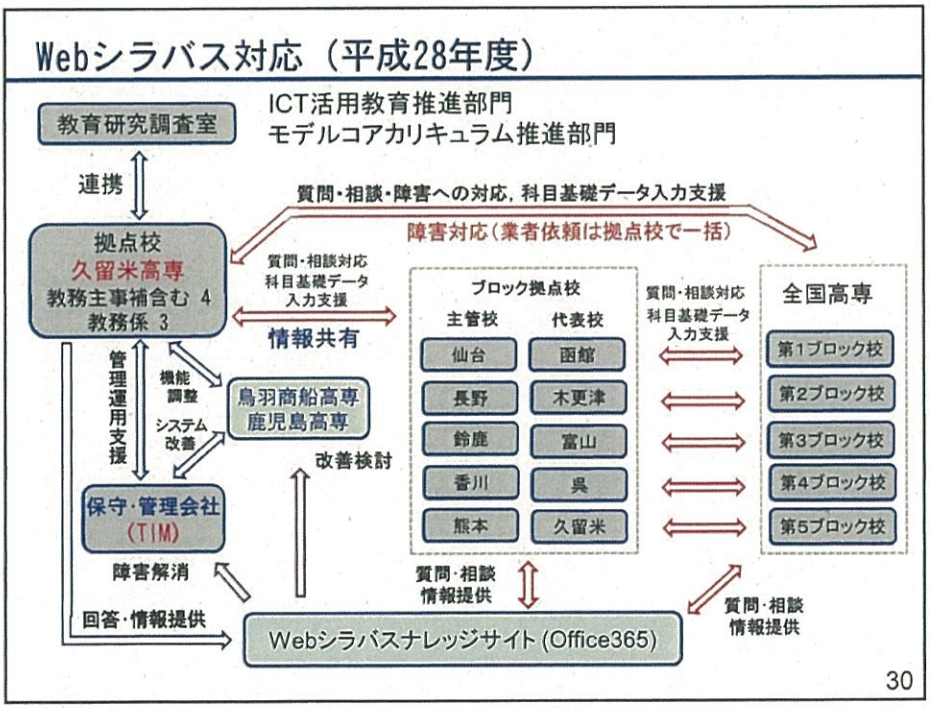
WebシラバスによるMCCの実行



江崎 修央 2015 高専フォーラム「WEBシラバスの活用とルーブリックの展開」に加筆

28


Webシラバス
公開ページ
マスタ
和男 直志
設計システム工学
学習内容
シラバス
同一内容の科目を参照
同一内容の科目を内容コピー
学習内容の到達目標
目標水準
設定
(専1)応用情報処理演習
(専1)画像工学
(専1)応用情報処理
(専1)創造工学実験
(専1)専攻科研究基礎
(専1)弾塑性力学
(専1)数値力学
(専1)応用流動工学
(専1)熱機械論
(専1)システム制御工学
(専1)デジタル制御
(専1)専攻科インターンシップ
(専2)専攻科研究論文
(専2)生産加工学
(専2)計算力学
(専2)メカトロニクス工学
(専2)ライフロジー解析学
製図(制図)の基礎(制図)
図面の役割と種類を理解できる。
製図用具を正しく使うことができる。
線の種類と用法を説明できる。
品物の投影図を正確に書くことができる。
製作図(制図)
製作図の書き方を理解できる。
図形を正しく描くことができる。
図形に寸法を記入することができる。
未指定
1 知識・記憶
2 理 解
3 適 用
分 析
5 評 価
創 造
29


Webシラバス対応（平成28年度）
教育研究調査室
ICT活用教育推進部門
モデルコアカリキュラム推進部門
連携
質問・相談・障害への対応，科目基礎データ入力支援
障害対応（業者依頼は拠点校で一括）
拠点校
久留米高専
教務主事補含む 4
教務係 3
質問・相談対応
科目基礎データ
入力支援
情報共有
ブロック拠点校
主管校
代表校
仙台
函館
長野
木更津
鈴鹿
富山
香川
呉
熊本
久留米
質問・相談対応
科目基礎データ
入力支援
全国高専
第1ブロック校
第2ブロック校
第3ブロック校
第4ブロック校
第5ブロック校
管理運用支援
機能
調整
システム
改善
鳥羽商船高専
鹿児島高専
改善検討
保守・管理会社
(TIM)
障害解消
回答・情報提供
質問・相談
情報提供
質問・相談
情報提供
Webシラバスナレッジサイト (Office365)
30

まとめ

1. 学校の概況　40名・5学科・5学年＋専攻科30名・2学年=1100名
　筑後40%, 福岡45%, 女子20%. 教員77名+職員45名
2. 進路状況　就職60% →高い求人倍率. 技術者として就職
　（本科）　進学40%＝25%大学編入(九大ほか全国へ)
　＋15%専攻科
　（専攻科）　進学が60%を超える傾向. 九大を中心に有力大学院へ
3. 入学志願者　志願倍率2倍 → 中学生数減に対し様々な広報活動
4. 改善実施　材料工学科 学科名称変更
　障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律対応
5. 改善課題　留年者・退学者数
6. 高専機構の進める教育改善
　三つの方針策定, Webシラバス

31

説明資料

教職員人事の考え方について

校　長　　三　川　譲　二

H28：外部評価委員会告

教職員人事の考え方について

独立行政法人 国立高等専門学校機構
久留米工業高等専門学校長
三川　譲二

目　　次

Ⅰ　教職員数
Ⅱ　人事の基本方針
Ⅲ　人事の実際
Ⅳ　人事の課題



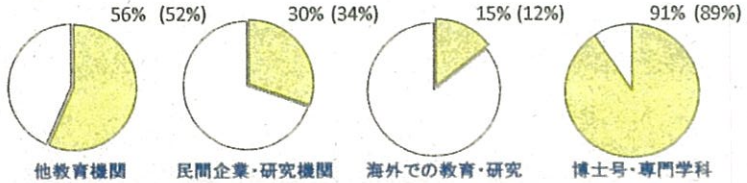
1 教員数

		校長	教授	准教授	講師	助教	計
現員数	校長	1(0)					1(0)
	機械工学科		4 (0)	5 (0)	1 (0)	1 (0)	11 (0)
	電気電子工学科		4 (0)	4 (1)	2 (0)		10 (1)
	制御情報工学科		6 (0)	3 (0)		1 (0)	10 (0)
	生物応用化学科		6 (0)	4 (0)	1 (0)	1 (1)	12 (1)
	材料工学科		2 (0)	4 (0)		2 (0)	8 (0)
	一般科目（文科系）		4 (3)	5 (0)	2 (0)	1 (0)	12 (3)
	一般科目（理科系）		3 (0)	6 (1)		1 (0)	10 (1)
	合　計	1(0)	29(3)	31(2)	6(0)	7(1)	74(6)
	（休職・育休）				2(0)		2(0)
	定　員	1	36	35		7	79

1．括弧内は女性教員数で内数
2．休職・育休数は現員数の外数

参考:教員構成

教員の経歴・学位



	教育職員					
	校長	教授	准教授	講師	助教	計
定員	1	36	35	0	7	79
現員	1	29(3)	31(2)	8	7(1)	76(6)
一般文科		4(3)	5		2[1]	12(3)
一般理科		3	6(1)	1	1	11(1)
機械		4	5	1	1	11
電気電子		4	4(1)	3		11(1)
制御情報		6	3		1	10
生物応用化学		6	4	1	1(1)	12(1)
材料		2	4		2[1]	8

技術職員	事務職員	合計
45		124
16	29	121

( )は女性・内数[ ]は再雇用フルタイム教員・内数
他に再雇用短時間雇用教員 材料1
電気電子には休職補充教員任期付き1名を含む

2 職員数

		事務部長	課長	課長補佐	係長	技術長	技術専門員	看護師	技術・一般職員等	計
現員数	事務部	1								1
	総務課		1	2	6				8	17
	学生課		1	1	4			1	4	11
	教育研究支援室					1			15	16
	合計	1	2	3	10	1	0	1	27	45
	定員	1	2	4	9	1	2	1	25	45

Ⅱ　人事の基本方針

年度計画（H28年度）

独立行政法人国立高専機構
中期目標・計画・年度計画
（第Ⅲ期：H26～30）

⇓

久留米高専年度計画

⇓

国立高専機構事業報告書

Ⅰ 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置
1 教育に関する事項
(1)入学者の確保
(2)教育課程の編成等
(3)優れた教員の確保
(4)教育の質の向上及び改善のためのシステム
(5)学生支援・生活支援等
(6)教育環境の整備・活用

2 研究や社会連携に関する事項
3 国際交流等に関する事項
4 管理運営に関する事項
Ⅱ 業務運営の効率化に関する目標を達成するために取るべき措置
Ⅲ 予算
Ⅶ その他主務省令で定める業務運営に関する事項
1 施設及び設備に関する計画
2 人事に関する計画

Ⅰ-1-(3)優れた教員の確保

①公募採用・多様なキャリア・適正配置

②高専間・技術科学大学との教員交流
企業内研修制度活用検討

③優れた教育能力
専門科目（理系の一般科目）
⇒博士の学位（技術士）（70%以上）
一般科目
⇒修士の学位以上（80%以上）
高度な実務能力（民間企業の経験）

④女性教員の優先的採用
（公募上の工夫・職場環境整備）

⑤校外教育研修機会の確保
（機構主催の教員研修・全国高専フォーラム）
ＦＤ会議の企画運営

⑥教員功労賞授与・機構教員顕彰への推薦

⑦国内外研究員派遣・教育助成金による国際学会発表促進

⑧教員採用・昇格基準の明文化と適正運用

Ⅰ・4 管理運営に関する事項

①機構主催「管理職研修」への参加
⑥事務職員・技術職員の研修会参加
（国立大学法人・（社）国立大学協会主催の研修会を含む）
事務職員・技術職員功労賞授与・機構職員顕彰への推薦
⑦国立大学・高専間事務職員人事交流
⑩教職員の健康管理の取組推進

Ⅶ・2 人事に関する計画

（１）方針
教職員の積極的な人事交流
各種研修への積極的参加
（２）人員に関する計画
本校の実情に即した常勤職員の配置

教職員人事管理の指針

（理事長裁定H28･3･31）

1 目的

教職員の能力向上･組織の活性化

2 採用に関する指針

教員＝公募選考採用

選考委員会審査

人事委員会審査

職員＝国立大学法人等職員採用試験

＊多様な能力･経験を持つ人材採用

女性教職員の採用拡大

3 昇任に関する指針

（1）能力と実績評価

（2）教員及び職員昇任基準の策定

管理職間での共有と必要に応じた教職員周知

（3）教員昇任

選考委員会審査･人事委員会審査

4 教職員の能力開発の推進

（1）OJT･OFF-JT･職務付与の組合せ

（2）職位に応じた能力の

管理職間での共有と必要に応じた教職員周知

5 人事異動の指針（職員）
（1）留意事項
①適材適所・人材育成による人事配置
士気高揚・組織の活性化につなげる
②長期的な視点でのキャリア開発
若年層：異なる分野を定期異動
中堅層：適性・専門能力に応じた異動
③定期人事ローテーションによる業務の
適正の確保
（2）高専・技科大間教員交流制度，高専
間職員交流制度の活用
6 人事評価の活用

Ⅲ 人事の実際

1 教員採用

①人事連絡委員会（資料1）
→採用方針・採用候補者の審議
校長，教務・学生・寮務・専攻科・企画
各主事，各学科長 （委員長＝校長）

②調査委員会
→応募者の書類審査，面接審査等
教務主事，受入学科長，
受入学科の教授1名
人事連絡委員中校長推薦者1名
（委員長＝互選）

③新任教員アドバイザー制度

2-1 教員評価

①高専機構教員顕彰に係る
教員自己点検評価（5点法）

②高専機構教員顕彰に係る
教員の相互評価
（教育活動・学生生活指導・地域社会
への貢献等3名推薦）

③高専機構教員顕彰に係る
学生による教員の評価（資料2）

④教員における勤勉手当および
昇給区分の優秀者の決定方法（資料3）
（役職及び各長による推薦ポイント方式）

2-2 職員評価

①職員人事評価制度（資料4）
　能力評価（年1回）
　業績評価（年2回）
②職員人事評価者（資料5）

3-1 教員研修

	研修会等名	主催（担当校）	期日	会場	人数
1	H28度高等専門学校新任教員研修会	独立行政法人国立高等専門学校機構	5月16日～17日	国立オリンピック記念青少年総合センター	5
2	H28度高等専門学校教員研修（管理職研修）	独立行政法人国立高等専門学校機構	7月11日～12日	学術総合センター	2
3	H28度高等専門学校中堅教員研修	独立行政法人国立高等専門学校機構	8月29日～31日	学術総合センター	1
4	H28度インストラクショナルデザイン研修	独立行政法人国立高等専門学校機構	12月12日～13日	福岡・リファレンス大博多貸会議室・学術総合センター	1
5	H28度アクティブラーニングトレーナー研修	独立行政法人国立高等専門学校機構	11月14日～15日	品川	2
6	H28度女性教員キャリアアップセミナー	独立行政法人国立高等専門学校機構	12月19日～20日	国立オリンピック記念青少年総合センター	1
7	職場のハラスメント相談員スキルアップセミナー	NPO法人福岡ジェンダー研究所	12月3日～4日	JR福岡シティ小会議室	1

3-2 職員研修

	研修名	主催	開催地（担当校）	開催時期	人数
1	独立行政法人国立高等専門学校機構初任職員研修会	独立行政法人国立高等専門学校機構	学術総合センター	4.20～4.22	4
2	九州大学新任係長・専門職員研修	九州大学	九州大学	6.15～6.17	1
3	人事事務担当者説明会	機構本部人事課		9.14	1
4	九州地区国立大学法人等係長研修	宮崎大学（一社）国立大学協会九州支部	宮崎商工会議所コンベンションホール	8.31～9.2	1
5	九州沖縄地区国立高等専門学校事務系職員研修	第5ブロック会議	熊本高専大会議室	9.8～9.9	3
6	九州地区国立大学法人等テーマ別研修	九州大学	九州大学伊都キャンパス	8.29～8.31	3
7	独立行政法人国立高等専門学校機構若手職員研修会	独立行政法人国立高等専門学校機構	学術総合センター	11.14～11.16	1
8	情報システム統一研修（第2四半期）	文部科学省	文部科学省大臣官房政策課情報化推進室	第２期	1

3-3 職員研修

研修名	研修名	主催	開催地（担当校）	開催時期	人数
1	西日本地域高等専門学校技術職員特別研修会	高専機構	豊橋技術科学大学大会議室（担当校：北九州高専）	H28.8.24～26	1
2	三菱重工業株式会社「技術向上研修」	三菱重工業株式会社	【座学】三菱重工業（株）研修センター（名古屋市）【実習】三菱重工業（株）相模原製作所（相模原市）	【座学】H28.10.3～10.6【実習】H28.10.18～10.27	1
3	グローバルSD（マレーシア・ペナン研修）	高専機構	マレーシア・ペナン（豊橋科技大）	H28.7.27～29（国内）H28.8.16～28（ペナン）	1
4	九州地区国立大学法人等技術職員スキルアップ研修A	（社）国立大学協会九州地区支部九州工業大学	九州工業大学	H28.9.7～9.9	1

4 教員人事交流

①高専・両技科大間教員交流制度
経験年数3年以上の教員
1年以上3年以内
58歳未満の教員
②同居支援プログラム教員交流制度
育児・介護等ライフイベント
1年以上5年以内

5 男女共同参画

①高専機構一般事業主行動計画
・仕事と子育てを両立できる環境整備
・女性教職員の比率向上
・女性教職員の上位職登用
・所定外労働の縮減
・年次有給休暇を取得し易い環境づくり
・育児・介護の相談と休業環境整備
②女性教員比率向上のためのポジティブ・アクション（1名に付100万円配分）
③教員職体験インターンシップ
（教員採用希望女性対象）

6 教員の昇任

①久留米工業高等専門学校教員の昇任について（資料6）
- 教育（授業・試験・成績評価，課外活動の指導等），研究，学校運営等の業績，年齢，定員を総合的に評価・勘案
- 研究業績の明確化
- 60歳特例
- 推薦要件

②年齢別構成（資料7）

Ⅳ 人事の課題

1 人事制度上・運用上の課題

・教職員採用の基準の明文化
・体系的な教職員研修
・職員の昇任の基準の明文化
・教員の昇任の基準の適正な運用
（年功とパフォーマンスのバランス）
・男女共同参画への取組みの強化

2 人事戦略上の課題

人事は経営（事業）の成功のためのものだとすると，久留米高専にとって経営（事業）とは何か，そこでの課題は何か

・入学者の確保，学力の保証，進路の保証
・研究業績（外部資金の獲得）
・地域貢献
・社会貢献
・国際交流

→数値目標の設定の困難さ

・業務運営の効率化
・予算の確保
・施設・環境の整備

3 人事への理解と合意

・採用，登用，研修，評価，昇任のプロセスに対する理解
・事業及び課題に対する意思一致
→教職員のやる気，根気

説明資料

創造性を育む教育の現状について

校長補佐／専攻科主事　　池　田　　隆

「創造性を育む教育の現状について」

平成28年度外部評価委員会
平成28年12月22日（木）
専攻科主事　池田　隆

1

本校の教育実践

一般教育と専門教育の連携
科学～人文～工学

一般科目（文科系・理科系）科目
専門学科の専門科目での工夫

↓

創造的、実践的な技術者の育成
本科・専攻科

2

創造性を育む教育の紹介

一般科目（文科系）
　世界史、国語(現代文)
一般科目（理科系）
　応用物理実験、数学の研究活動
機械工学科
　機械要素設計実験、機械工学導入セミナー
電気電子工学科
　電気電子実践演習(Ⅰ・Ⅱ)、創造工学実験
制御情報工学科
　情報セキュリティ（新設）、創造プログラミング演習（新設）
生物応用化学科
　創造化学実験、創造工学実験
材料工学科
　World Materials Day Award の受賞、
　ISTS(インドネシア)で研究成果発表

3

1．2年生世界史 一般科目（文科系）

「教科書を批判的に検討し、教科書の修正文を提示するレポート」の題材探し

自分で教科書を読んで題材を探す



4～5人グループで各自が探した題材を説明し合う

一つの題材を選び、それを全員で考え、調べ、まとめる





クラス全員に伝える

目的

自分の考えていることを他人に
理解してもらえるように伝えること
他人が考えていることを自分が理解できるように聞き、
その理解のために質問すること

コミュニケーションの経験値を高める

4

一般科目（文科系）

2．2年生国語Ⅱ(現代文)

〈主体的な読み〉〈意見交換による気づき〉〈より深い読解〉
を目指したグループ発表演習

教材：中島敦『山月記』 グループ：6～7名

グループごとに梗概・意味調べ・時代背景や作品に関わる事象の調査・説明をしたうえで、問題提起

「説得するって、難しい・・・」「意外な人から意外な意見が！」

担当範囲の中から疑問点や解釈の分かれるところを挙げさせ、自分たちの意見を発表



質疑応答 ・ 自由討論

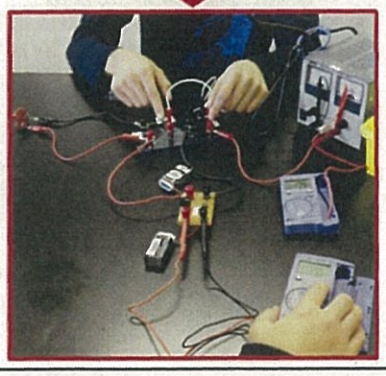
- 読解力の構築
- 討論力・プレゼンテーション力の強化
- コミュニケーション能力の向上

5

一般科目（理科系）

1：応用物理実験
対象学年：3年
授業時間：200分x14回
特徴：手作り実験装置を使った実験授業であり、学生自らが実験装置を組み立て、調整し、測定する。学生自らも実験系に工夫を加える。





一般科目（理科系）

2：数学の研究活動

毎年希望者を募って数学の勉強会と研究活動を行っています。

研究テーマは、「フィボナッチ数列、円周率の計算、確率、重心、和算」等々です。

科学教室の講師を務めたり、科学コンクールで入賞する等の成果を上げています。

（一般理科（数学））



小学生に重心を教える。



科学コンクールで入賞

7

機械工学科

1：機械要素設計実験（対象学年：5年通年）

工夫や特徴：ものづくりの最適設計の過程、すなわち設計、解析、製作、試験やグループ議論を行うことで専門科目の理解度を高める。

その他コメント等：企業で実際に行われているものづくりの過程を体験する。

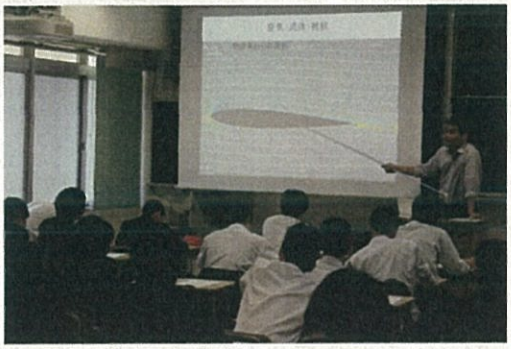


機械工学科

2：機械工学導入セミナー（対象学年：1年前期）

工夫や特徴：機械工学の全体像の把握や専門分野の概要を理解させるため、それぞれの専門科目の教員によるオムニバス形式の授業

その他コメント等：
1年生うちに5年間で習う専門科目の概要を学ぶことで、数学や物理などの基礎科目の学習意欲を高める。



電気電子工学科

電気電子実践演習 II（本科2年、通年）

エネルギー、エレクトロニクス、practical communicationの基礎
低学年から創造力、実践力の養成を推進。
少人数教育（10～14人）を複数教員指導。

体験的な題目
「電磁気学演習」「回路」「工作」
「コミュニケーション」等
3回の連続
電磁気の例：[復習を兼ねた講義]
[教科書（英語）を使った復習]
[アルミ箔に直流で電位差を作り
検流計でアルミ箔上の等電位線
を探査、レポート作成まで実践]など



アルミ箔上の等電位線探査

10

電気電子工学科

創造工学実験（専攻科1年前期）　週300分×15回

創造性のあるテーマを自主的に設定
時間、予算、発表等の制約条件
企画、設計、試作評価、発表と報告書
実践を伴う活動

電気電子工学コース
発想を装置に具体化
ハードウェア、ソフトウェア等
総合的な力を集約
小人数教育の効果が大



一例：和音認識システム

11

制御情報工学科

1：情報セキュリティ（新設）
対象学年：3年生
工夫や特徴：初めてのセキュリティ講義
その他コメント等：情報化社会において、人々の生活が便利になっている反面、プライバシーの侵害やネット犯罪などが社会問題になる。学生に情報セキュリティの重要性を認識させ、その素養を身につけさせる。

12

制御情報工学科

2：創造プログラミング演習（新設）

対象学年：4年生

工夫や特徴：プログラム開発実技の習得、
チームワーク能力の養成

その他コメント等：プログラミング知識の習得は講義だけではなく、実際タブレットのアプリケーションの開発を経験させることにより、プログラム開発の実技やチームワーク能力を身につけさせる。

13

生物応用化学科

1：創造化学実験(生物応用化学科本科1年・前期)

工夫や特徴：本科1年で生物応用化学に関する興味を高め，「モノから原理」への入門とする目的で2004年度に新設された。

シラバス抜粋

2植物の種まき・観察・収穫
（カイワレダイコン）
3廃油セッケン作り
4DNAの抽出（各種野菜）
5色素の合成
6高分子実験
7フルーツゼリー作り
8カルメ焼き作り
9電池の作成
10パン作り
11ホタライトによるホタルの発光実験
12溶液の調製法・中和滴定
食酢中の酢酸の定量
13使い捨てカイロの作成
14工場見学









14

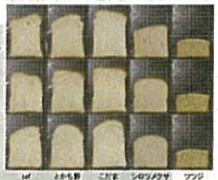
生物応用化学科

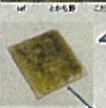
2：創造工学実験(専攻科1年・前期)

工夫や特徴：学生が研究テーマについて，企画・立案・遂行する。教員は，アドバイザーに徹する。

過去２年間に実施されたテーマ

2016年度
久留米高専構内における製パンに適した酵母の探索
*Juglone*類縁体が有する植物に対する生育阻害活性の評価
イチョウの木を用いた紙の作製
切り花に対する抗菌剤の効果の検討
生物由来キチンの抽出とポリマーブレンドによる物性評価
2015年度
かんきつ類果肉を模したゾル-ゲル組成物の作製
5秒ルールの検証と床から食パンへの大腸菌移動量の測定
ポリシロキサン多孔体を用いたスマートフォンのカバーの作製と物性調査
食品廃棄物の天然ゴムへの利用
香り付き食品サンプルの作製





久留米高専
天然酵母

ブレンドポリ
マーシート



バニラの香り発砲
樹脂

15

材料工学科



1：World Materials Day Award の受賞

科目名：創造工学実験

対象学年：専攻科

工夫や特徴：学生自身の発想・アイディアで材料工学への理解と興味・関心を寄せてもらうことを目的に、身近な製品に応用されている「機能的な材料」を作製し、ホームページ上に動画で掲載した。

http://www.cc.kurume-nct.ac.jp/AES/wp-content/themes/twentythirteen-child/report/report_1.html







16

材料工学科

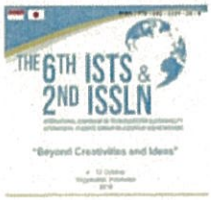
2：ISTS(インドネシア)にて研究成果の発表

科目名：卒業研究、創造工学実験

対象学年：本科5年、専攻科1年

工夫や特徴：研究テーマの選定、進行などを学生を主体として行わせ、創造性・自主性を養うよう工夫している。

その他コメント等：研究成果をインドネシアで開催されたISTSにてポスター発表(学校長推薦)を行った。







一般科目（文科系・理科系）教科

5学科での専門教科

日々の工夫の積み重ね

一般教育と専門教育の連携

広い視野と豊かな心を兼ね備えた技術者

卒業生の広範な進路に反映

各種コンテスト、大会での学生の活躍

今後も工夫と充実を継続

18

平成２８年度　外部評価委員会報告書

編集　**久留米工業高等専門学校**

発行　**久留米工業高等専門学校**
平成２９年３月発行

〒８３０－８５５５　久留米市小森野一丁目１番１号
ＴＥＬ　０９４２－３５－９３００
ＵＲＬ　http://www.kurume-nct.ac.jp/